

# SYLLABUS

2022 年度 秋学期

**3年次**

青森公立大学

経営経済学部



## 教員メールアドレス一覧

専任教員		専任教員	
氏名	E-mailアドレス	氏名	E-mailアドレス
<p>教員メールアドレスは、 事務局前に配置しますので 各自受領してください。</p>			

# 目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
教養科目	美と価値	(2)	選必	皆川俊平・宇野あずさ	7	
	異文化の理解	(2)	選必	石本 雄大	11	
	遺跡と文化財	(2)	選必	岡田 康博	14	
	生命の科学	(2)	選必	長岡 朋人	17	
	仏教の思想	(4)	選必	松本 知己	20	
キャリア教育科目	事業論Ⅲ	(1)	選必	今泉 清保	24	
専門科目	経営学科	経営倫理学	(2)	選必	上田 弘	26
		会社法Ⅱ	(2)	選択	白石 智則	29
		経営情報論	(2)	選択	【非開講】	
		生産管理論	(2)	選択	小嶋 高良	32
		経営特殊講義Ⅱ	(2)	選択	山下 修平	35
		労働法	(2)	選択	三田村 浩	38
		非営利組織会計	(2)	選択	池田 享誉	41
		職業指導	(4)	選択	内海 隆	44
		税務会計Ⅱ	(2)	選択	金子 輝雄	48
		地域企業論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	生田 泰亮	1
	地域社会論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木 てる	4	
	経済学科	産業組織論	(4)	選必	小寺 俊樹	85
		開発経済学	(2)	選択	大場 裕之	51
		金融機関論	(2)	選択	國方 明	57
		国際金融論	(2)	選択	中條 誠一	60
		公共政策論	(2)	選択	木立 力	63
		経済特殊講義Ⅳ	(2)	選択	中井 大介	67
		会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	29
	地域みらい学科	労働法【他学科展開科目】	(2)	選択	三田村 浩	38
		自治体政策法務論	(2)	選択	遠藤 哲哉	70
経営革新論Ⅱ		(2)	選択	生田 泰亮	73	
地域と産業政策		(2)	選択	安田 公治	76	
環境ビジネス論		(2)	選択	平井 太郎	79	
地域みらい特殊講義Ⅲ		(2)	選択	竹内 紀人	82	
フィールドリサーチⅢ		足達 健夫	(2)	選択	足達 健夫	—
		生田 泰亮			生田 泰亮	
	遠藤 哲哉	遠藤 哲哉				
	香取 薫	香取 薫				
	佐々木 てる	佐々木 てる				
	長岡 朋人	長岡 朋人				
	三浦 英樹	三浦 英樹				
安田 公治	安田 公治					
会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	29		

# 目 次

## 2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生）

- (1) 「経営革新論Ⅱ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「事業創造論」の読替科目です。
- (2) 「自治体政策法務論」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「自治体法務論」の読替科目です。

## 2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」で始まる学生）

- (1) 「経営革新論Ⅱ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「事業創造論」の読替科目です。
- (2) 「自治体政策法務論」は、2019年度以前入学生は履修できません。

<b>〔科目名〕</b> 地域企業論Ⅱ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 生田泰亮 IKUTA Yasuaki	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 地域企業論Ⅱでは、地域企業の環境分析と戦略策定について学ぶ。具体的には『中小企業白書 小規模企業白書 2022年版 上 新たな時代へ向けた自己変革』を取り上げ、これを読み解くことを中心に講義を進める。主に、統計データを読み、地域企業を取り巻く環境変化、最新の動向を読み解く力を身につける。また、教科書の進捗状況に合わせて、企業の経営課題や専門知識について解説していく。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 地域企業論Ⅰで学んだ内容を基本として進める。本講義は、多くの科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」である。関連づけ、反復することで「有効な思考法」を身につけるよう努力すること。		
<b>〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕</b> (1)『中小企業白書』を読み解き、地域企業がおかれた社会、市場、産業などの動向を理解し「地域企業の環境分析」ができる。 (2)地域企業の経営政策、事業戦略について学び、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる能力を養う。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 教科書を事前に読んでいることを前提として講義を進める。しっかりと予習すること。 質問、相談等はいつでも受け付ける。講義中、講義終了後、アポイントを取った上でのオフィスアワーなど遠慮なく。		
<b>〔教科書〕</b> 中小企業庁編『中小企業白書 小規模企業白書 2022年版 上 新たな時代へ向けた自己変革』日経印刷株式会社、2022年。 他、適宜、資料を配布。		
<b>〔指定図書〕</b>		
<b>〔参考書〕</b> 塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理[新版]』有斐閣、2009年。 M. E. ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論(I)(II)』ダイヤモンド社、1999年。		
<b>〔前提科目〕</b> 地域企業論Ⅰ（単位取得していることか、必須条件）。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）</b> 課題レポート:50%、期末試験:50%（詳細は講義内で説明する） ※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 80%以上 A      79-70% B      69-60% C      59-50% D      49%以下 F		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 予習として「教科書の各回の指定範囲を必ず読み出席する」こと。 予習していることを前提に講義を進めるので、この点、十分に留意して取り組んでほしい。		
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし		

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション            内 容: 講義内容と進め方について(※シラバスを必ず持参すること)            第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」①            教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(1)            内 容: 第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」②            教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(2)            内 容: 第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」③            教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(3)            内 容: 第1部第1章「中小企業・小規模事業者の動向」④            教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(4)            内 容: 第2部第1章「中小企業における足下の感染症への対応」①            教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(5)            内 容: 第2部第1章「中小企業における足下の感染症への対応」②            教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(6)            内 容: 第2部第2章「企業の成長を促す経営力と組織」①            教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(7)            内 容: 第2部第2章「企業の成長を促す経営力と組織」②            教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(8)            内 容: 第2部第2章「企業の成長を促す経営力と組織」③            教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(9)            内 容: 第2部第3章「共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援」①            教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(10)            内 容: 第2部第3章「共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援」②            教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く(11)            内 容: 第2部第3章「共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援」③            教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): ケース・スタディ①            内 容: 教科書内の事例、ビデオ学習によるケース・スタディ            教科書・指定図書</p>

第14回	<p>テーマ（何を学ぶか）：ケース・スタディ②</p> <p>内 容：教科書内の事例、ビデオ学習によるケース・スタディ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ（何を学ぶか）：まとめ</p> <p>内 容：講義全体のまとめと振り返り、期末試験、課題レポートの提出について</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>※詳細については第1回および講義の中で説明する。</p>

<b>〔科目名〕</b> 地域社会論Ⅱ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 佐々木 てる Sasaki Teru	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>場所:</b> 時間:授業開始時に指示 <b>場所:</b> 授業開始時に指示	
<b>〔科目の概要〕</b> 青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服し」「強みをとことん生かす」ためのアイデアが重要視されている。 この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。 (1)「交流人口」:インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。 (2)「循環人口」:いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。 (3)「共生人口」:人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。 これら3つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> 決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。 日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。 <b>中間目標</b> 前半は特に、人口減少問題のレビュー、県内の外国籍者の実態など基礎的な知識や考え方を学ぶ。そのため、グローバル化や市民権、多文化共生に関する理論的な視点も学んでもらう。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。 コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法をより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。		
<b>〔教科書〕</b> 特になし		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし		
<b>〔参考書〕</b> 授業時に紹介する		
<b>〔前提科目〕</b> 特になし		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。</li> <li>・授業中盤で確認試験を行い、理解度をはかる。</li> <li>・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。 主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。</li> </ul> <p>毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。 特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験 60%、コメント用紙・小テストを 40%として採点する。</li> </ul> <p>A～F の評価は本学の規定に準ずる。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。</p> <p>また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ： 世界から青森へ、青森から世界へ</p> <p>内 容： ガイダンス 導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ</p>
第2回	<p>テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(1)</p> <p>内 容： 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としての ICT の導入と外国人労働者の導入について考える。</p>
第3回	<p>テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(2)</p> <p>内 容： 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。</p>
第4回	<p>テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(3)</p> <p>内 容： 前回に引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加にもなう課題と問題を考える。</p>
第5回	<p>テーマ： 交流人口(1)</p> <p>内 容： インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に行う。</p>
第6回	<p>テーマ： 交流人口(2)</p> <p>内 容： 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。</p>
第7回	<p>テーマ： 循環人口(1)</p> <p>内 容： 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。</p>
第8回	<p>テーマ： 循環人口を考える(2)</p> <p>内 容： 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。</p>
第9回	<p>テーマ： 青森県の共生人口を考える(1)</p> <p>内 容： 三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。</p>

第10回	<p>テーマ：青森県の共生人口を考える(2)</p> <p>内 容：青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。</p>
第11回	<p>テーマ：グローバル時代の移民政策(1)</p> <p>内 容：多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。</p>
第12回	<p>テーマ：グローバル時代の移民政策(2)</p> <p>内 容：世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。</p>
第13回	<p>テーマ：多様性のある地域社会に向けて(1)</p> <p>内 容：外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。</p>
第14回	<p>テーマ：多様性のある地域社会に向けて(2)</p> <p>内 容：現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。</p>
第15回	<p>テーマ：青森から世界へ、世界から青森へ</p> <p>内 容：青森県の強みを再度考え、課題を考察する</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> 美と価値	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 皆川俊平 Minagawa Shumpei 宇野あずさ Uno Azusa	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義後 <b>場所:</b> 講義室あるいは講師控え室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義および演習
<b>〔科目の概要〕</b> <p>本講義では、美術およびデザインに関する歴史を概観しながら、今日の生活・文化における美的感覚との関係性について各教員の専門領域に応じて講義を行います。講義では美の範囲を美術作品に限らず、美的なモノ・コトまで幅広く解釈しています。キーワードは、色彩、写真、アートプロジェクト、地域デザインなどです。</p> <p>実務経験から得た知識や技能をもとに、最新の現状や現場での実体験をもとに授業を実施することで、現代社会における美と価値の在り方について考えていきます。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>美術は、太古の文明の発達以前から今日まで人類が続いてきたもののひとつです。その理由は、美術は非言語かつ文字に依存しない『伝達手法』であり、美術史の変遷はひとえに『人々のコミュニケーションの在り方の変遷』でもありません。私たちの身の回りには、美術史が息づいているのですが、多くの人はそれをあまり意識しません。それは、知識・教養としての美術史と、生活・文化における美的感覚が漸絶しているからです。</p> <p>本講義では、知識・教養としての美術やデザインの概要を押さえつつ、今日の生活や文化における美的感覚との関係性を明らかにしていきます。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術領域のモノ・コトに関する概念的知識を得る。</li> <li>2. 美術作品の歴史的な発展や社会的影響について理解する。</li> <li>3. 美術作品を歴史学や考古学など他の領域の視点から考察することで、論理的思考を養う。</li> <li>4. 講義内容をノートにまとめることで、美術領域について言語表現できる。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度より授業担当者が変更するため、該当なし。</li> <li>● 授業担当者2名によりオムニバスでの講義および演習を実施します。受講を検討している学生は、第1回講義に必ず参加してください。</li> </ul>		
<b>〔教科書〕</b> なし。授業内容に応じて適宜資料を配布します。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> なし。授業内容に応じて適宜資料を配布します。		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 本講義による成績評価は、講義内容をまとめたノートの提出および期末レポートにより評価を行います。		

### 〔評価の基準及びスケール〕

本講義では、定期試験は行わない。講義内容をまとめたノートの提出および期末レポートにより成績評価を行う。これらの総計を100点満点に換算し、50点以上を合格とします。不合格者には追加課題を実施する場合があります。なお、評価基準は以下の通りです。

講義内容をまとめたノートの提出 60%  
期末レポート 40%

- A 80点以上
- B 80点未満～70点以上
- C 70点未満～60点以上
- D 60点未満～50点以上
- F 50点未満

### 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

#### <授業について>

本講義は、講義および演習形式で行います。授業の前半は、生活・文化における美的感覚を形成してきた美術作品から企業の経営や発想法として今日に続く美的なモノ・コトまで幅広く解説していきます。後半では演習を通して学んだことを活用するための課題を行い、実践的に授業内容を習得していきます。

#### <授業実施について>

- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、授業形態および授業内容を変更する可能性があります。
- ・授業連絡は Google Classroom を用いて講義に関する連絡を行うため、授業内でお知らせしたクラスルームコードを必ず登録し、適宜確認してください。

### 〔実務経歴〕

自治体での文化政策担当者としての勤務経験のほか、非常利活動を行う任意団体の主宰による、展覧会キュレーション、アートマネジメント、広告デザインの実務を経験した担当教員が、それらの実務的観点からも解説・指導します(皆川)。

美術作品の制作、展覧会等での発表、また空間デザインに関する実務経験を有する担当教員が、美術作家ないしはデザイナー等のデザイン当事者・実務者としての視点から解説・指導します(宇野)。

### 授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):地域社会×美術 内 容: 美術やデザインによる思考法やマネジメント(人・もの・情報をつなぐ手法)は、まちづくりや地域おこしなどに応用しています。初回はガイダンスを含め、担当教員がこれまで実践したアートプロジェクトやデザインプロジェクトを紹介しながら、今日における美的感覚の展開について解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第2回	テーマ(何を学ぶか):写真史-複製による記録/記憶- 内 容: 視覚的情報を伝達する写真は、現代社会において欠かすことのできない重要な役割を担っています。写真史の概観し、ポートフォリオ作成やカメラ・オブ・スクラの制作などの演習を交えながら、写真がもつ記録性や複製技術によって変化した記憶について解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第3回	テーマ(何を学ぶか):色彩学 内 容: ポスターやパンフレット、ファッション、インテリア、建物、景観や自然。わたしたちの身の回りには様々な色があり、色彩は様々な表現に欠かせません。色彩について基本的な知識、配色による心理的効果など色の持つ性質について配色テクニックによる演習を交えながら、解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):描くことと書くことについて</p> <p>内 容: 美術を初めとした芸術に関する行為は、近代以降「個人の考えや意思の発露」となっています。すなわち意見やアイデアを自己から他者へと伝達するコミュニケーションまたは自己の内から外へのアウトプットとなります。そのうえで、コミュニケーションとアウトプットの手法である描くことと書くことの違いについて考えながら、美術制作を行う意味や意図を探っていきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):場所の声を聴く</p> <p>内 容: 美術制作を行う際に、いったい何からインスピレーションを得るのでしょうか。自己の内面から発現するものもあれば、外的要因の影響を受けることもあります。この外的要因として、日常を改めて見直し、「場所」や「土地」への意識的な働きかけを行う作品や制作手法を解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):物を見る、事を見つめる</p> <p>内 容: インスピレーションの源泉としてのインプットを、今度は物や事に対象を変えて考察します。事物を見つめる目は、単純に「見る」という行為だけでなく、見えないものを類推するための深い観察・洞察も重要です。目に見える事柄から、見えない関係性を見出すまでの思考プロセスを解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):話すことと放すことについて</p> <p>内 容: よく、コミュニケーションを「言葉のキャッチボール」と例えることがありますが、美術は何らかの情報を伝達する行為と見なすこともでき、芸術の鑑賞は作品や体験を通じた、作者と鑑賞者との共創的な創造行為です。これを踏まえ、視覚表現や身体表現のさまざまな在り方を解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):テーマ、コンセプト、モチーフ</p> <p>内 容: 美術作品の鑑賞や制作では、テーマとコンセプト、またモチーフなどの用語がしばしば混同されていることがあります。これら用語の適切な意図を把握することで、鑑賞や制作の筋道を明確にしていきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):文化の引用と盗用</p> <p>内 容: 様々な民族に固有の文化があり、そのような文化は他の文化、とりわけ今日の美術やデザインに大きな影響を与えてきました。美術史的観点から文化と美術の相互作用を解説しつつ、今日問題となっている文化の盗用を、美術だけでなく音楽なども含めた芸術全般と社会との関係から考察していきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):祭りと祀り / 境界における美の考察①</p> <p>内 容: 民族と文化、すなわち民俗学的視点から、今日の美術の状況を概説します。特に「地域」を舞台としたさまざまな取り組みを、美術史を拡張し民俗と生活史の観点から考察していきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):美術におけるジェンダー/ 境界における美の考察②</p> <p>内 容: 美術・芸術への学びを深めると、その根底には支配と隷属、またマジョリティとマイノリティといった、近代以降に顕著となった社会的課題が、今日も未だに解決せず横たわっていることに気づきます。とりわけ、政治的背景や民族、そしてジェンダーといった課題が明らかとなりますが、これらが「美」として昇華され社会への問題提起に変わっていく過程を、聖と俗の境界の反転性から考察していきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):歴史的価値・文化的価値としての美術</p> <p>内 容: これまでの講義を踏まえ、歴史的価値と文化的価値の双方から、美術が社会にもたらす価値を解説・考察します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>

第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済的価値としての美術 / 美術市場</p> <p>内 容:          これまでの講義の一方で、現代の美術には商業的な価値もあります。今日の美術市場を概説しつつ、多面的な美術の価値について理解を深めていきます。          教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):美を図る(測る)ための価値とは何か①</p> <p>内 容:          これまでの講義を踏まえ、「正解」の無い問いである『美』に対し、受講者それぞれの「価値」を定めていきます。講義全体のリフレクションを主体に、受講者相互の知識や経験を共有するコミュニケーションとしてのワークショップを行います。          教科書・指定図書なし。適宜資料を配布します。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):美を図る(測る)ための価値とは何か②</p> <p>内 容:          これまでの講義を踏まえ、「正解」の無い問いである『美』に対し、受講者それぞれの「価値」を定めていきます。講義全体のリフレクションを主体に、受講者相互の知識や経験を共有するコミュニケーションとしてのワークショップを行います。          教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。</p>
試験	<p>試験は行わず、期末レポートとする。</p>

<b>〔科目名〕</b> 異文化の理解	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 石本 雄大	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 初回授業時に提示 <b>場所:</b> 同上	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 現代は多様な領域でグローバル化が進み、ここ青森でも実感することが多い。そのような現代に、異文化を理解することは他者との交流、協働、課題解決の基礎となる。加えて、他者との関係の更なる深化のためには、自文化(自己)の理解が不可欠である。この考えに基づき、本授業では様々なテーマを取り上げ、自文化(自己)および異文化(他者)について理解を深めることを目指す。 グローバル化の進展する現代では、各地で起こる食料問題、宗教対立、環境問題といった課題は世界規模で繋がり、各地で影響しあう。解決のためには、課題の全体像を世界規模で把握し、地域の文化社会的背景を理解することが重要となる。そこで本授業では、自文化(自己)および異文化(他者)の理解を深めるため、講義担当者の国内外でのフィールドワークや実務経験を交え、世界各地の事例を紹介し、その全体像や背景を学び、その解決策について論じる。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> ・なぜ、学ぶ必要があるか・・・自己および他者をより深く理解するため。 ・学んだことが何に結びつくか・・・世界各地で生じる諸課題の全体像や背景を学び、身の回りで起こる問題を客観視する訓練となる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 本授業では次の3点を主な到達目標とする。 ・異文化(他者)についての知識及び理解を深める。 ・自文化(自己)についての知識及び理解を深める。 ・文献検索、情報収集、小論文執筆、口頭発表の技術を高める。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 問題点、改善要望とも特になしとのこと。 引き続き、授業内容の改善に務める。		
<b>〔教科書〕</b> 適宜資料を配布。		
<b>〔指定図書〕</b> なし。		
<b>〔参考書〕</b> 講義の際にリストを提供。		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> ・授業(第1回～第15回のうち)の3分の2以上、つまり最低10回以上出席すること。 ・課題①調査計画(第4回前日まで提出、10点満点)、課題②文字起こし(第8回前日まで提出、10点満点)、課題③小論文(第12回前日まで提出、30点満点)、課題④口頭発表(第12回前日まで提出、5点満点。第12、13、14回に受講生の1/3ずつが口頭発表を実施、5点満点)、課題⑤他学生からの学び(第15回前日まで提出、10点満点) ・授業レポート2点満点/回 × 15回(合計30点満点) ※各課題・授業レポートの提出方法、採点基準は第1回の講義の際に説明予定		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> ・A:80%以上、B:70-79%、C:60-69%、D:50-59%、F:49%以下		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>          真剣に授業を担当します。そのため、以下に該当した際には退室とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時間後10分以降の入室。</li> <li>・授業中の私語。</li> <li>・携帯電話の着信音が鳴った場合。</li> <li>・その他、授業を妨げる行為。</li> </ul>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>          国際協力機構(JICA) 専門家の国際協力業務として日本とボツワナの研究・教育機関との国際共同研究プロジェクト運営に参画。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 授業概要          内 容: 授業全体の構成、評価の方法(課題、授業レポート、提出方法、採点基準)、課題の内容、授業の注意点を説明する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化①食</u>、<u>課題①調査計画</u>          内 容: 世界と日本の食文化の多様性を例示し、歴史・風土との結びつきを概説する。加えて、<u>課題①立案</u>を説明する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化②食料問題</u>、<u>理解の手法①インタビュー調査</u>、<u>②ライフヒストリー調査</u>          内 容: 先進国一途上国の関係、南北問題について説明し、飢餓および飽食の問題について解説。社会組織、階層、世代を理解するライフヒストリー調査の研究事例研究を紹介する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化③環境と生業</u>、<u>課題②インタビュー結果の文字起こし</u>          内 容: 世界各地の生業および食料生産を比較・事例紹介し、多様な自然・社会環境との関係性を解説する。また、インタビュー結果をまとめる作業の1つである文字起こしを説明する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化④衣住</u>、<u>理解の手法③参与観察</u>          内 容: 周囲の自然・社会環境と服飾や住居の関わりを紹介し、構造や機能を解説する。加えて、行事・作業に参加し理解する手法③について紹介する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑤宗教</u>、<u>理解の手法④非参与観察課題</u>          内 容: 世界宗教の歴史、対立、国内宗教の変遷について解説。第三者として調査対象を観察する手法④について説明する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥家族とエスニシティ</u>、<u>課題③小論文執筆の要点</u>          内 容: 世界各地の家族の在り方を紹介。加えて、文化を共有する社会集団や、そこで共有される意識を意味するエスニシティについて解説する。課題③執筆における要点(章立て、考察のコツなど)、注意点(図・表・写真の扱い、引用のルールなど)を説明。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑦グローバル化と地域文化</u>、<u>課題④口頭発表の説明</u>          内 容: 多国籍企業によるモノ・カネ・情報のグローバル化や、そのローカル化による新たな文化を紹介する。その後、課題④の要点、注意点を説明する。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑧貧困問題とセーフティネット</u>、<u>理解の手法⑤アンケート調査</u>、<u>⑥統計分析理解の手法</u>          内 容: 世界の貧困、日本の貧困について概説し、文化社会経済的背景について解説する。公的および非公的社会保障を紹介し、後者と助け合いの文化との関わりを解説する。また、手法⑤、⑥の手順、まとめ方を解説し、それらを用いた研究事例を紹介。          教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑨人間社会と環境問題</u>、<u>理解の手法⑦社会経済データ</u></p> <p>内 容: 過剰利用(土地劣化、砂漠化、漁業資源劣化、水質・大気汚染、温暖化)、低利用(森林荒廃)など生活の営みと環境問題の関連について解説する。社会経済データ活用の方法と注意点を概説。</p> <p>教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑩-1 移民および出稼ぎ(世界の事例)</u>、<u>理解の手法⑧メディア情報の活用</u></p> <p>内 容: 移民や出稼ぎに関して事例紹介を行う。移民排斥、受容のメカニズムについて文化社会経済的背景を手掛かりに説明する。メディア情報活用の方法と注意点を解説する。</p> <p>教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑩-2 移民および出稼ぎ(日本の事例)</u>、<u>課題⑤他学生からの学びの説明</u>、<u>課題④口頭発表の実施</u></p> <p>内 容: 日本からおこなわれた日系移民、近年増加する技能実習生、国内での移住や出稼ぎについて文化社会経済的背景を解説する。受容、排斥のメカニズムを検討し、相互理解の重要性を議論する。課題⑤の要点、注意点を説明する。その後、履修学生の1/3が課題④を実施。</p> <p>教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>実践①国際協力とSDGs</u>、<u>課題④口頭発表の実施</u></p> <p>内 容: 様々な国際協力の取り組み、その近年の動向を、SDGsと関連付け、紹介。事業の実効性、取り組みの持続性の観点から解説する。その後、履修学生の1/3が課題④を実施。</p> <p>教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): <u>実践②地域課題とまちづくり(日本)</u>、<u>課題④口頭発表の実施</u></p> <p>内 容: 過疎や高齢化など日本の農山漁村や地方都市におけるの現状と今後の展望を解説する。その後、履修学生の1/3が課題④を実施。</p> <p>教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総括「多文化社会に生きる」</p> <p>内 容: 全講義をまとめ、異文化理解及び他者理解の重要性を総括する。</p> <p>教科書・指定図書: 授業時にリストを提供</p>
試験	<p>課題および授業レポートによって成績評価するため、一斉試験は実施しない。</p>

<b>〔科目名〕</b> 遺跡と文化財	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 岡田 康博 OKADA Yasuhiro	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義及び現地見学
<b>〔科目の概要〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県には特別史跡三内丸山遺跡をはじめとして、史跡亀ヶ岡遺跡や史跡是川遺跡な著名な縄文遺跡や多種多様な文化財、文化遺産が存在する。これらは歴史的・文化的資源であるとともに、活用可能な地域資源でもあることから、適切に保護・保存しながら十分に活用する必要がある。</li> <li>・文化財の定義や種類、価値、日本における文化財保護の歩みや文化財保護法、世界遺産の理念や登録へ向けての仕組みなどについて学び、各地に所在する文化財の保護や活用事例を紹介するとともに、地域社会に貢献する文化財の活用のあり方を考え、その具体的な計画案を試験的に作成する。</li> <li>・そのためのケーススタディーとして縄文遺跡を取りあげ、最新の研究成果に基づく縄文社会の実像や当時の生活や文化などについて知り、その価値や魅力、地域資源としての可能性を考え、地域づくりや活性化、人材育成に活かす方策などを探る。</li> <li>・遺跡や文化財を通して地域社会の重要性や可能性を考えるため、考古学の成果も参考とするが、考古学・歴史学の講義ではない</li> <li>・最近注目されている世界遺産についてもその趣旨や制度を理解し、効果や課題などについて考える。</li> </ul>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における文化財保護の仕組みや課題について知ることにより、文化財保護や活用の基本的な考え方や思想を整理、確認するとともに地方自治体等が行う文化財保護行政の本来のあり方や課題を具体的に知る。</li> <li>・さらに地域の遺跡や文化財をどのように保護し、さらに多様な活用方法を検討することにより、自分自身が街づくりや地域づくりのプランナーとして、あるいは一住民やボランティアとして将来活動、参加する際の貴重な体験ともなる。</li> <li>・最近、注目されている世界文化遺産について、理念、登録までのプロセス、課題等を知ることにより、世界文化遺産をより身近な地域の話題として、受け止めることができる。</li> <li>・大学の近くに所在する、日本を代表する縄文遺跡である三内丸山遺跡についてこれまでの経過を振り返りながら、発掘調査で見えてきた縄文文化の実像を知ることにより、日本列島における人類史はもちろん自分たちの暮らす地域の歴史や文化、風土の形成等について学ぶことができる。</li> </ul>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における文化財保護の仕組み、活用を中心とした文化財保護行政の現状と課題について知る。</li> <li>・ケーススタディーとして、縄文文化に関する最新の研究成果をもとに、三内丸山遺跡をはじめとする縄文遺跡の特徴について理解する。</li> <li>・世界文化遺産について、その理念や登録までプロセス、方法、課題等を知り、さらに登録後の状況も知る。</li> <li>・地域資源としての遺跡や文化財の特徴を活かした多様な活用についての計画案を作成することを最終目標とする。</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護法については必要箇所を概説するとともに、これまでの判例等を取り上げ、課題等についても解説する。</li> <li>・三内丸山遺跡の現地見学を含め、ビデオやスライドなどの映像資料を多く使用し、より多くの事例を紹介し、具体的なイメージを構築できるような講義とする。</li> <li>・縄文文化に関する研究成果では、衣食住など生活に関する項目を取り上げ、より生活感があり遺跡や文化財について親しみを持てるようにする。</li> <li>・毎回、講義内容についての資料を配付する。</li> </ul>		
<b>〔教科書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用しない。必要な資料は教員が作成し、配付する。</li> </ul>		
<b>〔指定図書〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なときに提示する。</li> </ul>		

<p><b>〔参考書〕</b> 『世界遺産になった！縄文遺跡』岡田 康博編 同成社 2021</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> なし</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> ・中間試験として遺跡観察レポート、定期(期末)試験として課題レポート(テーマや内容については授業中に提示する)を提出してもらい、総合的に評価する。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b> ・遺跡観察レポート、課題レポート、出席状況により成績評価を行う。毎回、出席の確認を行い、出席が少ない場合には評価の対象としない。</p> <p>遺跡観察レポート 20点 課題レポート 80点</p> <p>A:100～80 B: 80～70 C: 70～60 D: 60～50 F: 50～0</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 文化庁や長年にわたる文化財保護行政の実務経験をもとに、実務的な遺跡や文化財の保存や活用に関する最新情報を提供し、文化財保護法や文化財保護の仕組みについても具体例を用いながらの解説を心懸けている。また、縄文文化研究の最新の成果を紹介するとともに、日本では数少ない、遺跡の保存・活用の成功例として三内丸山遺跡の調査成果やこれまでの経過、行政的な取り組み等について実際に関わったものとしての体験談を伝え、地域の遺跡や文化財をどのように活用するのか、地域づくりや活性化、人材育成にどう活かすのか講義全体を通じて具体的な活用方法を考えて欲しい。さらに最近注目されている世界遺産について、理念やプロセス、登録方法、課題といった点についても取り上げる。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> 県職員として文化財保護行政及び世界遺産登録推進、文化庁文化財調査官として豊富な実務経験がある。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡、文化財について 内 容: 遺跡や文化財の種類や定義、日本における文化財保護の仕組み、文化財保護法について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 縄文遺跡について 内 容: 縄文遺跡について基礎的な内容について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 縄文時代のムラ(遺跡公園)を歩く 内 容: 三内丸山遺跡の現地見学を行い、縄文のムラの様子を知る</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存方法について 内 容: 三内丸山遺跡内で行われているさまざまな文化財の保存方法を知る。遺跡見学レポートの提出。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 縄文時代の暮らしについて          内 容: 発掘調査が語る当時の環境や生業、生活などを知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 三内丸山遺跡における活用の現状について          内 容: 遺跡の保存の経緯を知り、公開・活用の効果等について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(1)          内 容: 活用の観点から縄文時代の衣食住について考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(2)          内 容: 活用の観点から縄文人の精神世界や価値観を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 世界遺産について          内 容: 世界遺産の理念、登録の仕組み等を知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 世界遺産について          内 容: 世界遺産の効果、現状、課題等を知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(3)          内 容: 活用の観点から縄文人の生活を復元する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(4)          内 容: 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡を保存、活用する(5)          内 容: 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 遺跡を保存、活用する(6)          内 容: 遺跡や文化財の保存、活用について海外の事例について知る。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ          内 容: 講義内容を整理し、レポート作成にあたってのポイント、留意点を解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	課題レポート提出

<b>〔科目名〕</b> 生命の科学	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養科目
<b>〔担当者〕</b> 長岡朋人	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:在室時 場所:605 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 本講義は、私たちの身体を形作っている生物学的基礎の学習を通して、科学リテラシーを涵養することを目的とします。生物学はヒトと環境を理解する基礎となるとともに、私たちが歩んできた進化の道筋を解き明かしてくれます。生物学は細胞や組織から身体、環境、生態まで幅広い領域を範疇とし、自然科学、人文社会科学の多様な分野と学際的な接点を持っています。本講義は、生物学の多様な分野を視野におさめ、ときには研究の現場のトピックをまじえながら、分子生物学、神経科学、行動生態学、進化学の講義を行います。高校における生物の履修を前提としませんが、講義内容は大学教養レベルの内容です。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> 1. 批判的思考 私たちは生物学や医学に密接にかかわる場面で生活しています。科学の知識は常に進歩していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当たりの事柄に疑いを持ち、情報を取捨選択するための基礎知識を涵養します。 2. 専門分野との学際的接点 本科目と経営経済学との学際的接点(たとえば進化ゲーム理論は経済学にも関わりがあります)により、学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 1. 最終目標 (1) 書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2) 自分の言葉で情報を整理し意見を述べることができること、(3) 生物学に対する批判的思考を身につけることです。 2. 中間目標 (1) 膨大な情報量を持つ学問領域を知ること、(2) 科学リテラシーを身につけることです。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 毎回の課題シートを添削し、つねに講義の改善に努めます。昨年の講義方式を継続します。		
<b>〔教科書〕</b> 指定なし		
<b>〔指定図書〕</b> 「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)、「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)、「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)、「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)		
<b>〔参考書〕</b> なし		
<b>〔前提科目〕</b> なし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 講義時の課題への取り組み(50点)と期末試験(50点)により評価します。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> Aは80点以上、Bは70～79点、Cは60～69点、Dは50～59点、Eは49点以下と評価します。全講義回数の3分の1(講義回数が15回であれば5回以上)の欠席者はF評価とします。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者・遅延者はF評価とします。		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>1. 受講の姿勢  (1)生物学に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2)生物学に関わる膨大な情報量を理解するために、講義を聴きながらノートでメモを取る必要があります。講義への積極的な参加を希望します。講義の難易度は高校の理科よりも難しいレベルであり、復習が欠かせません。漠然と講義を受けるだけでは理解できないため、講義を受講しながらメモを取る癖をつけましょう。</p> <p>2. 学生への要望  (1)遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2)講義で分からないことは質問してください。(3)受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語や携帯電話の利用は禁じます。(4)マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):イントロダクション  内 容:本講義の目的、内容、評価方法について理解を深める。  教科書・指定図書 なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):生命倫理  内 容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。  教科書・指定図書 「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):分子生物学  内 容:核酸、DNA、遺伝子の本体、タンパク質合成、遺伝子発現について理解を深める。  教科書・指定図書 「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):分子生物学  内 容:核酸、DNA、遺伝子の本体、タンパク質合成、遺伝子発現について理解を深める。  教科書・指定図書 「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):神経科学  内 容:中枢神経の構造と機能について理解を深める。  教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):進化  内 容:進化のしくみについて理解を深める。  教科書・指定図書 配布資料</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動生態学  内 容:行動生態学について理解を深める。  教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動生態学  内 容:行動生態学について理解を深める。  教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動生態学  内 容:行動生態学について理解を深める。  教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)</p>

第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動生態学</p> <p>内 容:行動生態学について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):進化と行動</p> <p>内 容:利己的遺伝子と種の保存について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学</p> <p>内 容:ヒトの進化について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 配布資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学</p> <p>内 容:ヒトの進化について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 配布資料</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学</p> <p>内 容:ヒトの進化について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 配布資料</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学</p> <p>内 容:ヒトの進化について理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 配布資料</p>
試験	<p>期末試験</p>

<b>〔科目名〕</b> <b>仏教の思想</b>	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教養
<b>〔担当者〕</b> 松本知己 Matsumoto Tomomi	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業の前後、休み時間 <b>場所:</b> 教室、廊下、非常勤講師控室など。	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドに始まる宗教であるが、日本への伝来以降、社会の要請に伴って変容しながら独自の発展を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的理解を目的として、その基本構造と、展開の多様性を学ぶ。</p> <p>前半は、インド仏教の歴史を概観し、仏教的思考の基本について解説する。後半は、仏教文献の漢訳をはじめ、中国人による受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しつつ、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにしてゆく。随時、政治状況、文化事象との関連や、神道など他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと宗教との関係を考察する契機にしたい。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b> <p>「仏教の思想」では、仏教を一つの思想として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教の思想的側面を理解することは、自身のアイデンティティを確認することにもつながる。</p> <p>経営学や経済学を学ぶという点では、経済的な活動は人間の営みに他ならないので、人間に対する理解が必須となる。宗教を含む思想は、人間の精神の基盤をなす。また、世界には様々なタイプの宗教、思想が存在し、人々との関わり方も様々である。日本の伝統的な思想の構造を理解し、歴史を知ることで、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるだろう。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>最終目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教思想の基本的な構造を理解する。</li> <li>・ 日本仏教の特質を、現代に生きる我々自身との関連で理解する。</li> </ul> <p>中間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解する。</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>後方の席の受講者にも配慮して、できるだけ見やすい大きな文字で板書する。また、期末レポートの題目は、できる限り早めに告知する。</p> <p>その他、要望等については柔軟に対応するよう心がける。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>教科書は用いない。毎回資料を配付する。</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>宮元啓『わかる仏教史』(角川ソフィア文庫、2017)          末木文美土『日本仏教史—思想史としてのアプローチ—』(新潮文庫、1996)</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>平川章『インド・中国・日本 仏教通史』(新版) (春秋社、2006)          養輪頭量編『事典 日本の仏教』(吉川弘文館、2014)</p>		

〔前提科目〕	
なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
3分の2以上の出席を前提に、期末のレポート(60%)と平常点(40%)。毎回提出してもらいアクションペーパーのコメントなどによって評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕	
A 80点以上 B 80点未満～70点以上 C 70点未満～60点以上 D 60点未満～50点以上 F 50点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
仏教は世界宗教であり、歴史的にも実に多様に展開してきた。しかし思想としての基礎をふまえた上でなければ、その多様性への理解がなかなか進まない。予習は特に求めないが、毎回の講義後は、指定図書や随時紹介する参考文献を読んで、復習する時間を作ってもらいたい。	
〔実務経歴〕	
該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 総説 内 容: 授業の概要、評価基準など  教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 宗教類型論から見た仏教 内 容: 仏教、或いはインドの思想・宗教と、世界の諸宗教との比較  教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): インドの宗教と思想① 内 容: インド宗教思想史の概観(その一)  教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): インドの宗教と思想② 内 容: インド宗教思想史の概観(その二)  教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 初期仏教 内 容: 釈迦の生涯とインド仏教の成立  教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第I章

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の基礎①          内 容: 真理観(仏教は何を目指すのか)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の基礎②          内 容: 仏教者の集団と規則</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の基礎③          内 容: 仏教者の実践</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 部派仏教          内 容: 釈迦死後の教団分裂と諸部派の成立</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 部派仏教の教理          内 容: 存在論を中心に</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の成立と発展          内 容: 既存の部派を批判しつつ興隆した「思想運動」としての大乘仏教</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想①          内 容: さまざまな大乘経典</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想②          内 容: 大乘仏教の哲学的基盤となった「空」の思想</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想③          内 容: 『般若心経』を読む</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想④          内 容: 「空」の理論化、体系化としての唯識思想(その一)</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想⑤          内 容: 「空」の理論化、体系化としての唯識思想(その二)</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想⑥          内 容: 浄土教の成立と変容</p> <p>教科書・指定図書</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の思想⑦          内 容: 仏教と現世利益、密教の思想と実践</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中国人と仏教 内 容: 儒教をはじめとする中国思想と仏教との影響関係</p> <p>教科書・指定図書</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中国仏教の特徴 内 容: 中国人による仏教の取捨選択と体系化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか): 天台教学① 内 容: 日本仏教の母胎となった天台教学の概要</p> <p>教科書・指定図書</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): 天台教学② 内 容: 天台教学の思想と実践</p> <p>教科書・指定図書</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質① 内 容: 日本への伝来、最澄の戒律観</p> <p>教科書・指定図書</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質② 内 容: 空海の真言密教</p> <p>教科書・指定図書</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質③ 内 容: 伝来以降、鎌倉時代までの展開、総合と選択</p> <p>教科書・指定図書</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質④ 内 容: 現実肯定思想と自然観</p> <p>教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』FEATURE 2</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): 専修念仏① 内 容: 法然浄土教の基本構造</p> <p>教科書・指定図書</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): 専修念仏② 内 容: 法然浄土教の思想史的意義</p> <p>教科書・指定図書</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日蓮の法華教学 内 容: 日蓮の唱題思想、政教一致思想</p> <p>教科書・指定図書</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): 禅、全体のまとめ 内 容: 宋朝禅の導入と栄西、道元の思想 現代日本人と仏教</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>期末レポートの提出。試験は実施しない。</p>

<b>〔科目名〕</b> 事業論Ⅲ	<b>〔単位数〕</b> 1 単位	<b>〔科目区分〕</b> キャリア教育科目
<b>〔担当者〕</b> 今泉 清保 Seiho Imaizumi	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のキャリアをどう作っていくか、自分の将来をイメージする</li> <li>・ニュースがどうやって出来るかを知り、情報をどう集めるか、またメディア・リテラシーについて考える</li> <li>・インタビューをする側、される側をそれぞれ体験し、インタビュー記事を書く</li> <li>・自分が見たい、見てもらいたい番組を、内容、ターゲット層、放送時間帯などを考えて企画書を作る</li> <li>・イベントを企画し、プレスリリースを作成して「魅力ある発信」について考える</li> <li>・地域について取り上げたニュース企画を視聴して、地域の魅力や課題について考える</li> <li>・さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴して、自分のキャリアデザインを考える</li> </ul>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 現役アナウンサーによる、放送局の仕事をベースにして自分を表現し発信することについて考える講義です。 SNSで個人が自由に情報発信できるようになった現在、正しくわかりやすい情報を発信する能力は、今後どんな職種に就くとしても求められます。 また、自分の個性や魅力をわかりやすく伝えることは、今後の就職活動において、エントリーシートの作成や面接の際に必要となります。 講義を通して、自分の中の引き出しに何があり、何を取り出してどう伝えたら自分のことを相手に理解してもらえるか考え、キャリアデザインに役立てて欲しいです。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理してわかりやすく伝えられるようになる</li> <li>・ニュースや情報にどう接し、どこに視点をおいて伝えるか考えられるようになる</li> <li>・相手に適切な質問ができるようになる</li> <li>・暮らしている地域のことに興味を持てるようになる</li> <li>・自分のいいところ、経験したことなどを的確に人に伝えられるようになる</li> <li>・自分の言葉で文章が書けるようになる</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 授業評価が全体的に好評だったため、内容に大きな変更はありません。「テレビ」に加えて「ユーチューブ」「SNS」などの内容も加えるほか、コロナ禍におけるオンライン面接への対応も取り入れます。		
<b>〔教科書〕</b> 講師作成資料		
<b>〔指定図書〕</b> なし		
<b>〔参考書〕</b> なし		
<b>〔前提科目〕</b> なし		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>  各回の講義内容やテーマにそって、ミニレポートを講義中に書き、講義終了時に提出します。  提出された7回分のレポートをそれぞれ採点し、合計得点でグレードが決まります。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>  講義内で記入してもらったレポートについて、テーマに沿った内容か、適切な文章が適当な分量で書けているか、企画や視点に独創性があるか、読み応えがあるかなど総合的に判断して10点満点で採点します。  レポートの合計点でグレードが決まるため、欠席すると提出できなかったレポート分の合計点が下がり、評価も下がります。欠席が多い場合は、合計点が単位取得基準に届かないこともあります。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  ニュースや情報番組を作るときに大切なのは、相手のことをよく知り、知り得た情報をいかにわかりやすく伝えるか、ということです。これは就職活動における「会社を知る」「自分のことを伝える」に繋がります。  自分で考えた発想、相手から聞いた話、見た番組の感想などを、自分の言葉で「読み手に伝わるように」書く力を、7回のレポート提出でつけていきます。筆記用具は必ず持参してください。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  福岡放送アナウンサーを経て、東京でフリーアナウンサーとして番組出演多数。主なものに「めざましテレビ」「アッコにおまかせ」「はなまるマーケット」など。2011年青森テレビ入社。「ATV ニュースワイド」キャスターなどを担当。現在は「わっち!!」金曜中継担当など。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 自分のキャリアを考える  内 容： 講師や本学卒業生のキャリアから、これからどんなキャリアを形成するか考える</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ニュースについて考える  内 容： テレビニュースができるまで 取材の基本 メディアリテラシー 自分の人生のニュースとは</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： インタビューとは  内 容： インタビューの基本 インタビューをして記事を書いてみる</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 番組の企画とは  内 容： 人に「見せたい」番組を考え企画書を作る テレビとユーチューブの違い</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 魅力あるイベントとは  内 容： イベントを企画しマスコミ向けに「取材してみたい」プレスリリースを作成する</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域について考える  内 容： 地域のことを取り上げたニュース企画を視聴し、地域の暮らしや問題について考える</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 自分の魅力はなにか、目指すキャリアはなにかを考える  内 容： さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴し、目指すキャリアを考える</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>なし 毎回提出するレポートにて評価</p>

<b>〔科目名〕</b> 経営倫理学	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 基幹科目 選択必修
<b>〔担当者〕</b> 上田 弘 Ueda Hiromu	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業日の12時10分～12時30分 <b>場所:</b> 604研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>近年、企業の不祥事が絶えない。大手建設業界の談合、BSE(狂牛病)に関する食肉偽装、電力業界の虚偽報告、貿易商社による海外不正取引、大手電機メーカーの粉飾決算報告等、2000年以降に発生した企業不祥事だけでも枚挙に暇がない。こうした傾向は企業だけではなく、官僚機構、警察・検察機構、自治体等も含め、学校、病院等の様々な組織においても見られ、ガバナンス(統治)上の根詰まりが起きている。</p> <p>また、日本だけではなく、米国においてもエンロン、ワールドコム不正会計事件、欧州のドイツの大手自動車メーカー・フォルクスワーゲンによる排ガス不正問題の大きさの衝撃は、史上最悪の不祥事に発展している。</p> <p>これら頻発する不祥事を振り返ると、企業の売上・利益偏重主義や株主価値至上主義等のもたらす負の部分が露呈していることが背景となり、企業や組織の倫理観の欠如から生じるものが多く、企業の存亡に関わるリスクである。</p> <p>経営倫理の重要性を考えれば、企業等においてもガバナンス機能が発揮されなければならない時代である。その意味からも企業の社会的責任(CSR)並びに企業の経営倫理の重要性を理解するため、実際の企業事例にも触れながら、経営倫理に関する基礎的な知識の習得を目指すこととする。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>企業がCSRに取り組むメリットは、①社会の様々な利害関係者からの長期的な信頼、②リスクを事前に察知して事業のチャンスに結びつける変化への適応力、③将来にわたっての存在を期待される等がある。</p> <p>本授業を通じ、これからの企業や社会人は、時代の変化に対応して、もっと社会や環境の動きに関心を持ち、法令を超えた自主性が求められていることを認識し、企業活動を通じて倫理という視点から見る目を養い、これからの企業のあり方について理解を深めることを目的とする。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>経営倫理学の授業では、企業運営における企業の社会的責任と役割、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス等の知識に対する興味と理解を深め、実際の企業経営の現場で活用されている知識を付与したい。</p> <p>本授業を通じて、将来の就職活動、インターンシップの場面のほか、社会人になっても役立つセルフ・ガバナンス力を身に着けるための知識を習得し、その理解を高めることを目標にする。</p> <p>なお、本授業では、学習効果を高めるため、4回の連続授業を実施する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>この科目を担当するにあたって、私がこれまで企業及び役所等において実質経営者、管理者として勤務した経験から得た知見、多くの企業をフィールドワーク及び海外調査で訪ねた企業事例等を通じて、企業現場や経営実務に関する知識と有効な実践的スキルなども付与したい。</p> <p>本授業では、履修者からの要望、改善・工夫に関する意見や過年度のアンケート結果を参考にして、授業へ反映させるよう努力していきたい。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 田中宏司、松本恒雄 著『CSRの基礎知識』第1巻 日本規格協会		
<b>〔指定図書〕</b> 高 巖 著『コンプライアンスの知識』日経文庫 後藤啓二 著『企業コンプライアンス』文春新書 田村達也 著『コーポレート・ガバナンス』中公新書 水尾順一 著『セルフ・ガバナンスの経営倫理』千倉書房 村上芽 著『図解SDGs入門』日本経済新聞社 小平龍四郎著『ESGはやわかり』日経文庫 江夏あかね、西山賢吾著『ESG/SDGs キーワード130』金融財政事情研究会		

<p><b>〔参考書〕</b>          國部克彦 著『CSRの基礎』中央経済社          高 巖 著『ビジネスエッセンス(企業倫理)』日本経済新聞出版社          日経 ESG編『実践企業のSDGs』日経 BP 社          奥山俊宏著『内部告発のケーススタディから読み解く組織の現実』朝日新聞出版</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b>          なし</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>          ◎評価の方法          1. 秋学期開始後、10月の中間時に「課題レポートの提出」を課し、提出されたレポートは最大 50 点評価とする。          2. 学期末に「定期試験」を行い、最大 50 点評価とする。(試験では教科書、レジュメ、講義ノートは持ち込み可。)          上記 2 つの要素で最終評価に反映させる。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>          ◎評価の基準          授業で得た知識を基に、現代の企業で実際に行われているマネジメント(経営管理)内容の理解力で評価する。          A:80 点以上          B:80 点未満 70 点以上          C:70 点未満 60 点以上          D:60 点未満 50 点以上          F:50 点未満</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>          ・受講を希望する者は、必ず 1 回目の授業に出席してほしい。          ・授業は、出来るだけ分かりやすい授業を行うが、一方的に話すだけではなく、教科書及びレジュメ等の輪読、学生の意見を求めることもある。そのため、受講する学生には、授業への参加意識を持って出席してほしい。          ・PCや ipad、スマホ等の情報機器は、ノートをとる必要及び事例企業等を検索する場合に限り、その使用を認める。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>          経済産業省(旧通産省)、国の独立行政法人、中小企業等での実務経験を活かし、企業の社会的責任並びに経営倫理の重要性を理解するため、実際の企業事例にも触れながら、経営倫理に関する基礎的な知識全般の習得を目指すこととする。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
<p>第 1 回 9/29</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション、ビジネスにおける「企業の社会的責任(CSR)」について          内 容:(1)経営のはたらきとは何か、(2)サステナビリティ(持続可能性)とは、          (3)経営倫理とは、(4)企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)の概念、          (5)企業の主な不祥事、(6)なぜ今、CSR が求められているか          教科書とレジュメ資料</p>
<p>第 2 回 10/6</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業の社会的責任(CSR)とは何か          内 容:(1)企業が社会的責任に取り組む理由、(2)企業の社会的責任(CSR)の重要性と意義、          (消費者の変化、環境問題の深刻化、ネット社会の発展、グローバル経済が与える影響、          CSR の国際規格化) 等          教科書とレジュメ資料</p>
<p>第 3 回 10/13</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業不祥事と経営倫理 1          内 容:企業不祥事(スキャンダル)の現状、スキャンダル事例(三菱自動車、パナソニック等)          について考える          教科書とレジュメ資料</p>
<p>第 4 回 10/14</p>	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業不祥事と経営倫理 2          内容:(1)企業不祥事事例と倫理観の関係性、(2)経営倫理の史的展開          教科書とレジュメ資料</p>

第5回 10/27	<p>テーマ(何を学ぶか):世界中で進む CSR の導入 内 容:海外の CSR 最新事情(欧米、アジア、オセアニア)の等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第6回 11/10	<p>テーマ(何を学ぶか):動き出した日本の取り組み 内 容:産業界、行政官庁、学術研究界、民間組織 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第7回 11/11	<p>テーマ(何を学ぶか):日本企業の CSR 導入事例 内 容:東京商工会議所の CSR 調査、トヨタ自動車、西友、ソニー、資生堂等の導入事例</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第8回 11/17	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンス(corporate governance:企業統治)とは何か 内 容:CSRとコーポレート・ガバナンスとの関係、企業統治の不在、欧米でのコーポレート・ガバナンス革命 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第9回 12/1	<p>テーマ(何を学ぶか):日本的ガバナンスを考える 内 容:日本経済の成功と日本的経営システム、日本的経営の行き詰まり、日本の新しいコーポレート・ガバナンスの動き 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第10回 12/2	<p>テーマ(何を学ぶか):コンプライアンス(Compliance:法令遵守)とは何か。 内 容:コンプライアンス(法令遵守)とは何か、法律のコンプライアンスとは、法律以外のコンプライアンス(反社会性の除去)とは 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第11回 12/15	<p>テーマ(何を学ぶか):公務員倫理を考える 内 容:国家公務員倫理法及び倫理規程、青森県職員倫理条例及び倫理規程の概要) 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第12回 12/16	<p>テーマ(何を学ぶか):21世紀に花開く CSR、SDGsとESG 内 容:マーケティングのあり方、非財務情報(環境・社会)の重要性と CSR の多様な見方、CSR の本質、SDGsとESG 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第13回 1/5	<p>テーマ(何を学ぶか):企業における CSR 組織の策定と展開 内 容:経営トップのリーダーシップとコミットメント、CSR の本質の理解、CSR 組織の策定、IT の有効活用、ステークホルダーとのコミュニケーション 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第14回 1/19	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の社会的責任(CSR)の事例 内 容:中小企業事例(マンナンライフ)、大企業事例(パナソニック、トヨタ、ユニクロ) 等</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
第15回 1/26	<p>テーマ(何を学ぶか):経営倫理学のまとめ 内 容:</p> <p>教科書とレジュメ資料</p>
試験	筆記試験の実施

[科目名] 会社法Ⅱ	[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 白石 智則	[オフィス・アワー] 時間： 場所：	[授業の方法] 講義
[科目の概要]  本講では、春学期の「会社法Ⅰ」の講義とあわせて、「会社法」（平成17年法律第86号）が定める基本的な法制度（特に株式・資金調達・設立・組織変更）について学びます。		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]  いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。		
[科目の到達目標（最終目標・中間目標）]  「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]  講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続きパワーポイントを利用して講義を行います。		

<p><b>〔教科書〕</b> 拙著『会社法の教科書』(2022年) [税込900円] (前期の「会社法Ⅰ」で使用したものと同一、流通ルートに乗せていない自家版の教科書です。公立大の生協で購入してください。)</p>	
<p><b>〔指定図書〕</b> なし</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> 中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』(有斐閣、第2版、2021年) 江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第8版、2021年) 高橋美加ほか『会社法』(弘文堂、第3版、2020年) 田中亘『会社法』(東京大学出版会、第3版、2021年) 岩原紳作ほか編『会社法判例百選』(有斐閣、第4版、2021年)</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> なし</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 小テストと、授業内試験として行う期末試験により評価します(小テスト(10%)・授業内試験(90%))。小テストは、講義を2回行うごとに実施します(全7回)。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、講義後に指定のURLから受験してください。 期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します(持込不可)。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は失格とします。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 原則として、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、50点以上をDとしますが、平均点しだいで基準点を調整します。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 熱意をもって受講してくれることを期待します。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総論・機関 内 容: 会社法Ⅰの復習、会社法Ⅰの定期試験の採点雑観 教科書 拙著『会社法の教科書』第1章・第2章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式(1) 内 容: 株式の内容(株式とは、株主の義務・権利、株主平等の原則、) (講義終了後、第1回小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章Ⅰ1～4</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 株式(2) 内 容: 株式の内容(株式の内容についての特別の定め、種類株式) 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章Ⅰ5・6</p>

第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式(3)          内 容 : 株式の譲渡          (講義終了後、第2回 小テスト)          教科書 拙著『会社法の教科書』第3章II</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式(4)          内 容 : 自己株式、株式の大きさ            教科書 拙著『会社法の教科書』第3章III・IV</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の資金調達(1)          内 容 : 株式会社の資金調達 (資金調達の方法、新株発行とは、新株発行の方法)          (講義終了後、第3回 小テスト)          教科書 拙著『会社法の教科書』第4章I・II 1～3</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の資金調達(2)          内 容 : 株式会社の資金調達 (新株の発行手続、新株発行の差止請求、新株発行の無効の訴え)            教科書 拙著『会社法の教科書』第4章II 4～7</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の資金調達(3)          内 容 : 株式会社の資金調達 (新株予約権の発行等、社債の発行等)          (講義終了後、第4回 小テスト)          教科書 拙著『会社法の教科書』第4章III・IV</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の計算(1)          内 容 : 株式会社の計算 (会社法会計、会計帳簿、計算書類等)            教科書 拙著『会社法の教科書』第5章I・II・III 1～5</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の計算(2)          内 容 : 株式会社の計算 (決算手続、資本金と剰余金)          (講義終了後、第5回 小テスト)          教科書 拙著『会社法の教科書』第5章III 6～8・IV</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の設立(1)          内 容 : 株式会社の設立 (設立の概要、定款の作成)            教科書 拙著『会社法の教科書』第6章I・II</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の設立(2)          内 容 : 株式会社の設立 (出資者の確定、出資の履行、機関の具備、設立登記、発起人等の責任等)          (講義終了後、第6回 小テスト)          教科書 拙著『会社法の教科書』第6章III～VII</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 組織再編(1)          内 容 : 組織再編 (組織再編の種類、事業譲渡、合併)            教科書 拙著『会社法の教科書』第7章I～III</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 組織再編(2)          内 容 : 組織再編 (会社分割、株式移転・交換、株式交付)、株式会社の解散・清算          (講義終了後、第7回 小テスト)          教科書 拙著『会社法の教科書』第7章IV～VI・第8章</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 授業内試験 (期末試験)・解説          内 容 : 授業内試験 (期末試験)・解説            教科書 拙著『会社法の教科書』第3章～第8章</p>
試 験	<p>筆記試験 (四択問題・論述問題) (第15回の講義中に行います)</p>

<b>〔科目名〕</b> 生産管理論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 小嶋 高良 Kojima Koryo	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>生産管理は、経営における生産活動を効率化し、生産の三要素といわれる人(Man)、材料(Material)、機械(Machine)の三つの要素の有効性を最高に発揮させるための体系的活動をいい、具体的にいえば、需要に適合した製品ないし財を、需要の三要素といわれる良質に(良く)、安価に(安く)、しかも適時に(早く)生産するための体系的活動をいう。主内容は、生産管理概論、生産計画、作業研究、工程管理、品質管理、在庫管理、運搬管理、等である。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>生産管理の内容を大別すると、生産計画(Production Planning)と生産統制(Production Control)の二つの機能に分けられる。</p> <p>生産計画は、生産対象、生産数量、生産方法、生産する場所、生産する順序、生産時期、等を決めて、それを関係部門に目標として与えるもので、</p> <p>生産統制は、生産計画を維持して、改善していくために、適切な時点と場と方法で実績の測定と評価を行い適当な処置と対策を取ることで、</p> <p>モノづくりの生産現場の問題解決手法として、実際に多くが活用されており、経営経済学部教育目標である「経営」「経済」「地域」に関する専門的知識を学び、「多様なもの見方」に立ち、複雑化する現代社会の仕組みを多角的に捉え、問題解決に立ち向かう力を養うことを学ぶ学生としては、就職後の企業の中で学生ら自らが問題解決手法として活用する場面に結びつく非常に役立つ手法である。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>到達目標としては、生産管理の基本的な知識の理解とモノづくりの生産現場の問題解決手法としての理解について、またその活用方法についての到達度を評価する。</p> <p>そのために、講義用に作成したプリントを講義前に配布するが、予習として次回授業分のテキストを事前に良く読んで理解しておくこと。理解できなかったところはチェックしておくこと。</p> <p>また、ミニテスト、レポート課題を課することがあるが、その場合には良く調べて解答し必ず提出すること。</p> <p>そして、復習としてはテキストの内容の理解を深め、ミニテスト・レポート課題の解答をよく理解しておくこと。等を目標とし評価する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>学生から、授業内容を豊富にし過ぎたため、内容が散漫になった傾向があり、パワーポイントも枚数が多過ぎ、メモをとる時間にも制約が課せられたとの評価があり、少し内容を絞って、重点的に講義をするよう心掛けてきた。今年度は、学生がメモをとる時間にも注意をして、一層余裕のある授業に心掛けて行きたいと考えている。</p>		

<b>〔教科書〕</b> 教員作成資料	
<b>〔指定図書〕</b> 教員作成資料	
<b>〔参考書〕</b> 必要なときに提示	
<b>〔前提科目〕</b> なし	
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中にミニテストあるいはレポート課題を課することがある。</li> <li>・課題の内容などの詳細については、授業中に担当教員から指示する。</li> <li>・中間試験は実施しない。学期末に期末試験を実施する。</li> <li>・授業欠席が授業回数の3分の1を超える場合は、期末試験を受験不可とする。</li> <li>・試験の内容などの詳細については、最終授業時まで担当教員から指示する。</li> <li>・ミニテストあるいはレポート課題を実施した場合は、その評価と期末試験の評価を加算して総合的に評価する。</li> </ul>	
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニテストあるいはレポート課題を実施した場合はその評価を40%以下、期末試験の評価を60%以上とし、その合計100点満点の50点以上を合格とする。実施しない場合は期末試験100点満点の50点以上を合格とする。</li> </ul>	
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員としては、「経営」「経済」「地域」に関する専門的知識を学び、「多様なものの見方」に立ち、複雑化する現代社会の仕組みを多角的に捉え、問題解決に立ち向かう力を養う経営経済学部の教育目標に則り、工学的な生産現場のモノづくりについて関心の薄い学生に対しても、関心を高め、学習意欲を高めるようなさまざまな事例を取り入れながら、授業の工夫や進め方に取り組んでいきたい。</li> <li>・受講学生に対しては、各講義は生産現場のモノづくりの問題解決の各種手法として、実際に生産現場で各種手法の多くが活用されているということを良く理解し、就職後には学生本人も企業の中で非常に役立つ手法として活用するものとして意欲をもって授業に臨んで欲しい。</li> </ul>	
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし	
<b>授業スケジュール</b>	
第1回	テーマ (何を学ぶか)：生産管理論の概論 内 容：生産管理の概論と生産性、作業について  教科書・指定図書 教員作成資料
第2回	テーマ (何を学ぶか)：生産管理 内 容：生産計画と生産統制、生産方式について  教科書・指定図書 教員作成資料
第3回	テーマ (何を学ぶか)：プラントレイアウト 内 容：プラントレイアウトの概論とレイアウトデザインの体系的な進め方、基本原則、基本方式、手順、等について 教科書・指定図書 教員作成資料

第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 作業研究(1)          内 容 : 作業研究の概論と工程分析について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 作業研究(2)          内 容 : 動作分析について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 作業研究(3)          内 容 : 時間研究について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 工程管理          内 容 : 工程管理の概論と日程計画について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 品質管理(1)          内 容 : 品質管理の概論と品質、品質特性について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第9回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 品質管理(2)          内 容 : 品質保証について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第10回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 品質管理(3)          内 容 : 品質管理の手法について —QC7つ道具—</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第11回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 品質管理(4)          内 容 : 品質管理の手法について —新QC7つ道具—</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第12回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 品質管理(5)          内 容 : TQC と QC サークル活動について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第13回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 在庫管理          内 容 : 在庫管理の概論と発注方式について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第14回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 運搬管理          内 容 : 運搬管理の概論と運搬計画について</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
第15回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 生産管理論のまとめ          内 容 : 生産管理のトピックスとまとめ</p> <p>教科書・指定図書 教員作成資料</p>
試験	<p>(授業時間第8週第2時限) 筆記試験実施</p>

<b>〔科目名〕</b> 経営特殊講義Ⅱ(会計史)	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 山下 修平 Yamashita Shuhei	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義開始前後のほか、メール対応 <b>場所:</b> 講義室など	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b>  本講義は、会計の歴史の概要を理解することを目的とします。 具体的には、会計の起源や複式簿記の誕生から始めて、ヨーロッパにおける複式簿記の伝播や、株式会社会計の起源と発展等を扱い、現代における会計のグローバル化までを解説します。また、後半の6回程度を割いて、日本における会計史を解説します。 時代の変化とともに、誰かに「説明する」行為や、「記録と管理」の内容は変遷していきました。会計を取り巻く環境の変化により、会計は発展してきました。本講義では、会計が誰に何を求められてきたかを考えます。歴史を学ぶことにより、今起きている事象や、今後の世界情勢の変化への対応に、応用して欲しいと願っています。 現代の会計ピックに関連させながら、講義を進める予定です。会計の歴史を学ぶことにより、今日の会計に関する諸問題を考えていきましょう。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕</b>  ・他の科目との関連付け 会計に関する科目:「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」など。 会計史は、会計の歴史ではありますが、その背景にある経済事象の歴史、企業の歴史、経営の歴史にも強く関連します。幅広く視野を持ちながら学んで欲しいと思います。  ・学ぶ必要性と意義 会計史研究は、文字通り、会計研究と歴史研究の境界に位置する学問です。歴史を学ぶ意義を説明するのは容易ではありませんが、実験室での完全再現が不可能な社会科学では、歴史に学び、現状を分析し、未来を予測することは大切な作業です。本講義では、会計を対象として歴史を学び、現在の会計の問題を見つめたいと思います。 おそらく、会計史を学ぶことが、すぐに会計実務に生かされることや、就職活動を有利に進めること、お金を稼ぐことに結びつくことはありません(残念ながら)。しかし、経営経済学部在籍する学生の「教養」として学んでほしいと願っています。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b>  (中間目標) 会計の歴史の概要を理解することを目標とします。 (最終目標) 会計がどのように発達してきたのかを歴史的に学ぶことにより、現代の会計がどのように成立したのかを理解します。加えて、現代の会計に係る諸問題をより深く理解することを目標としています。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>  これまでの授業において、「会計」「簿記」に苦手意識を持つ受講生が多くいました。そのため、「簿記を苦手としている学生にとってわかりやすい講義」を心がけてきました。必要な会計の知識は、復習をしながら講義を進めています。この点はおおむね好評でしたので、今年度も同じ方針で臨みます。会計や簿記を苦手としている学生の受講を歓迎します。板書のスピード、または、レジュメ配付の頻度など、授業の進め方について様々なコメントを頂戴しております。履修者の皆さんの声に耳を傾けながら、バランスよく講義を進めたいと思います。		
<b>〔教科書〕</b>  教科書は指定しません。教員が作成したスライドやプリント、板書を用いて講義を行います。		

<p><b>〔指定図書〕</b> 野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士編『会計のヒストリー80』中央経済社、2020年。</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> 千葉準一・中野常男編著『会計と会計学の歴史(体系現代会計学第8巻)』中央経済社、2012年。 渡邊泉著『会計の歴史探訪—過去から未来へのメッセージ—』同文館出版、2014年。 遠藤博志・小宮山賢・逆瀬重郎・多賀谷充・橋本尚編著『戦後企業会計史』中央経済社、2015年。 友岡賛著『会計の歴史』税務計理協会、2016年。 上野清貴編著『日本簿記学説の歴史探訪』創成社、2019年。 中野常男・清水泰洋編著『近代会計史入門 第2版』同文館出版、2019年。 このほか、講義中に適宜紹介します。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> 特にありません。ただし、「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」などの会計学に関する科目を履修していると、より理解が深まると思います。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>期末試験を行います。 講義毎に課題(小テスト・小レポート・リアクションペーパー等)を課します。 &lt;点数の配分&gt; 期末試験(まとめの試験) : 40点(40%) 講義毎の課題 : 4点×15回 = 60点(60%)</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>・80点以上 : 評価A    ・70点以上80点未満 : 評価B    ・60点以上70点:評価C ・50点以上60点未満 : 評価D    ・50点未満 : 評価F</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計や簿記を得意とする学生だけでなく、苦手としている学生の受講を歓迎します。</li> <li>・前提となる会計学や簿記の知識に触れながら講義を進めますが、復習しておくとうれしいです。</li> <li>・該当する時期の世界史や日本史を復習しておくとうれしいです。</li> <li>・受講者の積極的な発言(質問・意見)を期待します。</li> <li>・現代における会計諸問題と結びつけながら、講義に臨んでください。</li> </ul>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 会計史とは 内 容: 講義全体の概要を説明します。会計史を学ぶ意義についてお話しします。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 会計の起源と複式簿記 内 容: 古代における会計の起源と、イタリアで誕生した複式簿記について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): ヨーロッパにおける複式簿記の伝播 内 容: ヨーロッパ(イタリア～オランダ～イギリス)において伝播した複式簿記の歴史的背景を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):株式会社の誕生と会計          内 容:株式会社の誕生が会計の発展に与えた影響について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):固定資産会計の生成          内 容:固定資産会計、とくに減価償却の考え方や、その生成と発展について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):財務諸表の生成と発展          内 容:貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などの財務諸表の生成と発展について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):管理会計の生成と発展          内 容:工業化に伴って生成・発展した管理会計について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):株式会社と監査          内 容:監査の起源と発達、そして、会計プロフェッションの誕生について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本会計史 日本の伝統簿記、西洋簿記の導入          内 容:江戸時代における日本の伝統簿記を紹介し、明治維新後の西洋簿記の導入を解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本会計史 明治時代～昭和初期          内 容:西洋簿記の伝播、減価償却の導入、商法制定の影響、戦前の監査、会計プロフェッションの誕生について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本会計史 戦時期          内 容:統制経済期における会社経理統制の展開について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本会計史 戦後日本の企業会計体制          内 容:企業会計原則の制定、証券取引法の制定、公認会計士による監査制度の導入などについて解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本会計史 公認会計士法と監査法人制度の変遷          内 容:戦後日本における公認会計士法と監査法人制度の変遷について解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):粉飾決算事件の事例と、その対応の歴史          内 容:世界と日本における粉飾決算事件の事例を紹介し、その対応の歴史を解説します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):会計ビッグバン、会計のグローバル化、そして今後の展望          内 容:会計ビッグバンの時代背景と会計制度の特徴について解説します。また国際会計基準の整備と、世界各国や日本の動向を解説します。そして今後の展望を検討します。</p> <p>教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。</p>
試験	<p>期末試験(まとめの試験)を実施します。</p> <p>講義のプリント資料や、ノートの持ち込みは可(ノートは自筆のみ)。</p>

<b>〔科目名〕</b> 労働法	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 三田村 浩 Hiroshi Mitamura	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>・企業に就職する際、その企業と労働契約を締結し、一定の労働条件の下、労働者は労務を提供し、その代償として賃金を受け取ることになる。そこでは、使用者(企業)も労働者も、労働基準法などの法律や就業規則において、会社における行動などが規律されており、紛争防止の見地からも正しく理解・把握しておく必要がある。</p> <p>・本講義では、個別的労働関係法の分野に属する労働基準法を中心として、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等、その他の労働関係法についても、時間の許す限り紹介する。憲法、民法及び商法(会社法)といった他の法律との関連も考察しながら、実務の分野にも目配りした幅広い講義を構成する。</p> <p>・学説及び判例を通じて、単に法的知識習得だけでなく、リーガルマインド(法的思考力)も養うことを目的とする。</p> <p>・時にはアルバイトなどで経験する身近な紛争を題材にししながら、いかに対処・解決していくべきか、行政機関による救済の活用を認識した上で、これを探る。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>・まずは労働基準法を概観し、事例・判例を通じて、就職する際に、労働者として自分の身を守るべく必要最低限の法的知識を取得し、ビジネス法全般の基礎的学習として位置付ける。</p> <p>・他のビジネス法関連科目と併せて、社会人として必要な知識を取得する。</p> <p>・リーガルマインド(法的思考力)を養いながら法的知識を得ることで、社会人になってから遭遇するであろう様々な労働問題に対して、適切に対処できるようになる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>・最終的には、労働法の知識を利用して、アルバイトや就職で遭遇する様々な労働問題に際して、冷静かつ的確な対処ができるようになることであり、ここでは、実際に問題が起こったときに、単に主張するのみならず、状況をしっかり把握した上で、当事者間で円満に解決が図られるように、リーガルマインドを備えながら考察する必要がある。</p> <p>・この最終目標に向けて、毎回授業で取り上げる重要項目を学習し、着実に法的知識を積み上げながら、労働問題に潜む背景をも踏まえ、真の解決あるいは最善策に向けて対処法を学んでいく。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>・受講ルールは初回に資料とともに詳しく説明するが、欠席学生を想定し、授業内で適宜確認する。</p> <p>・毎時間、コメント用紙に学んだことをまとめてもらうが、質問・要望・感想もコメントしてもらうことで、授業方法に問題があれば早急に対処する。</p> <p>・受講生が必要最低限の知識を取得できるように板書を工夫し、作成した講義ノートは、予習・復習用の補助教材として確立する。</p> <p>・判例や新聞記事を利用して、できるだけ身近な最新の話題を提供することで、まずは労働法に興味を持ってもらえるように工夫する。</p> <p>・配布資料の活用や確認テストを通じて、理解度を深めていく。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 小畑史子、緒方桂子、竹内(奥野)寿、『労働法(第3版)』、有斐閣。		

<p><b>〔指定図書〕</b> 講義の中で適宜提示。</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> 講義の中で適宜提示。</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> 特になし。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テストとして、レポート課題(2題)を評価する(50%)。なお、課題内容は、授業で扱った労働法の論点から出題し、授業内で発表する。</li> <li>・コメント点として、コメント用紙を利用して、毎回の授業終了前に授業内容に対するコメント(その回で学んだこと、意見等)をしてもらい評価する(30%)。</li> <li>・小テスト点として、授業で実施する2回分をそれぞれ評価する(20%)。空欄補充問題、論述問題を予定する。</li> </ul>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題、毎回のコメント、小テスト(2回)により評価する。</li> <li>・小テストやコメントの主な評価ポイントは、授業内容のまとめ方と論点の指摘である。</li> <li>・期末テストのレポート課題の主な評価ポイントは、条文、学説あるいは判例の検討、意見である。</li> </ul>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初回に受講ルールに関する資料を配布するので、欠席の場合は受講前に教務課で受け取り確認すること。</li> <li>・労働法は、就職活動あるいは就職に向けて、時には自分の身を守るために必要不可欠な知識となるため、できるだけ多くの法律関係を理解し、学んでもらいたい。</li> <li>・単なる条文の暗記ではなく、あるべき法制度を考えながら学ぶ授業である。</li> <li>・単に法律関係の理解のみならず、なぜそのような状況になっているのか、制度や背景も踏まえて学ぶ必要がある。</li> <li>・教科書や資料を効果的に利用することにより、予習・復習を行ってもらおう。</li> <li>・授業中、私語及びスマホ等の操作は厳禁である。</li> <li>・集中講義であるため、講義内容や受講ルールを理解し、しっかり参加することができる学生に受講してもらいたい。</li> </ul>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 労働法とは 内 容: 本授業の評価基準、労働法とは、憲法との関係</p> <p>教科書・指定図書 教科書 2～13 ページ</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 労働法体系と労働法のアクター 内 容: 労働法体系、労働法のアクター、労働者性、使用者性</p> <p>教科書・指定図書 教科書 13～14、25～30 ページ</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 労働契約の成立と採用内定 内 容: 労働契約、労使の自主的規範、労働契約の成立</p> <p>教科書・指定図書 教科書 20～24、34～35 ページ</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):採用の自由と試用期間          内 容:採用の自由、労働条件の明示、試用期間</p> <p>教科書・指定図書 教科書 46～59 ページ</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):試用期間と採用内定の法的位置づけ(主要判例の検討)          内 容:三菱樹脂事件、大日本印刷事件</p> <p>教科書・指定図書 教科書 46～59 ページ</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働契約の基本原則          内 容:労働契約の基本原則、平等原則、男女間の賃金差別の態様</p> <p>教科書・指定図書 教科書 8～9、132～141 ページ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):男女平等法理の展開と男女雇用機会均等法の成立          内 容:同一労働同一賃金、男女平等法理、男女雇用機会均等法の成立</p> <p>教科書・指定図書 教科書 135～148 ページ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):職場におけるセクハラと就業規則に関する規制          内 容:小テスト(1回目)実施予定、職場におけるセクハラ、就業規則の作成・変更、就業規則による労働契約の内容</p> <p>教科書・指定図書 教科書 34～39、139～140、35～37 ページ</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更          内 容:就業規則の法的性質、就業規則による労働条件の変更、「合理性」の判断基準</p> <p>教科書・指定図書 教科書 38～44 ページ</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更(主要判例の検討)          内 容:大曲市農協事件、第四銀行事件、みちのく銀行事件</p> <p>教科書・指定図書 教科書 35～44 ページ</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):賃金          内 容:賃金とは、休業手当、最低賃金法</p> <p>教科書・指定図書 教科書 80～96 ページ</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働時間          内 容:労働時間とは、柔軟な労働時間制度</p> <p>教科書・指定図書 教科書 98～99、107～116 ページ</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):裁量労働制と休憩・休日・休暇          内 容:小テスト(第2回)実施予定、裁量労働制、休憩、休日、年次有給休暇</p> <p>教科書・指定図書 教科書 99～116、118～124 ページ</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働契約の終了          内 容:合意解約・辞職、解雇</p> <p>教科書・指定図書 教科書 166～178 ページ</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめと振り返り          内 容:整理解雇をめぐる主要判例、全授業のまとめと振り返り</p> <p>教科書・指定図書 教科書 2～178 ページ</p>
試験	<p>レポート課題の提出(2題)</p>

<b>〔科目名〕</b> 非営利組織会計	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目・展開科目
<b>〔担当者〕</b> 池田享誉 Yukitaka Ikeda	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 最初の授業中に通知 <b>場所:</b> 514 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>平成 10 年の特定非営利活動促進法施行を契機として、非営利組織は広範な社会的役割を担うようになってきた。非営利組織は多種多様で、その範囲は、公益法人、中間法人(協同組合等)、権利能力無き社団・財団(学術団体や町内会等)、さらには冒頭の特非営利活動法人という組織にまで及んでおり、統一的な会計(会計基準)が完備しているわけではない。</p> <p>本講義では、まず営利組織(企業)との比較において非営利組織会計に特有の諸性質を明らかにし、その上で、いくつかの具体的な非営利組織の会計を概観していく。</p> <p>さらに、米国の非営利組織会計について取り上げ、利益獲得を組織目的とはしない非営利組織が、財務報告において提供すべき情報は如何なる情報かを考えることにより、今後のわが国の非営利会計の発展の方向を考えてもらう。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>大学カリキュラムにおける会計・財務分野は、主として企業(営利組織)を対象とした科目群から構成されている。しかしながら、社会は、非営利組織などの多様な経済主体によって構成されている。</p> <p>近年、非営利組織の会計に企業会計的手法を導入することにより、非営利組織活動の効率化を図ろうとする動きが活発になっており、学生の皆さんがこれまでに学んだ企業会計の知識を生かせる環境が整いつつある。企業会計の知識を有する皆さんが、本科目で非営利組織の会計についても学ぶことにより、将来、社会で働く際に非営利組織の会計に携わるといった選択肢が増えることにつながる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>利益の獲得という共通の組織目的を有する営利組織(企業)とは異なり、非営利組織の目的や使命は、非営利組織の数だけあるといっても過言ではない。</p> <p>本講義の目標は、利益獲得を組織目的とする営利組織の会計(企業会計)と多様な組織目的を有する非営利組織の会計との、類似点と相違点を明確にし、非営利組織の会計の特殊性を理解するとともに、非営利組織の会計が担う社会的責任についての理解を深めることである。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>学生の皆さんからの意見としては、「説明がわかりやすい」、「いろんな資料を添付してくれるので理解が深まる」等の肯定的意見を多くもらえ、とてもうれしく思っています。</p> <p>改善すべき点としては、「一時間ずっと話を聞いているだけのことがあり、少し飽きる」等の意見をもらいました。この科目は私が担当するほかの簿記科目と異なり、覚えてできるようにすることではなく、学生自身に考えてもらうことが目的なので、さまざまな考え方とその根拠を伝え、皆さん自身に考えてもらっています。ですので、ただ話を聞いているだけではなく、ぜひ考えてください。</p> <p>今年度も、学生の皆さんのためになる内容を心がけていきたいと思っています。</p>		

<b>〔教科書〕</b> なし	
<b>〔指定図書〕</b> 『体系 現代会計学〔第9巻〕 政府と非営利組織の会計』中央経済社 池田享誉『非営利組織会計概念形成論』森山書店	
<b>〔参考書〕</b> 授業の中で適宜紹介する。	
<b>〔前提科目〕</b> 会計学基礎論、財務会計論、管理会計論	
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>  期末テストにより評価する。	
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b>  F<50点 50点≦D<60点 60点≦C<70点 70点≦B<80点 80点≦A≦100点	
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  本科目は、理論科目なので簿記の計算は扱わないが、理論を理解するために簿記の知識は必要となる。したがって、履修学生への要望としては、まず、「会計学基礎論」で学んだ簿記の計算構造を十分理解していることが求められる。 さらに、営利組織(企業)会計との対比により説明することが多いので、「財務会計論」および「管理会計論」の講義で学んだ企業会計理論を理解していることも履修学生には求められる。 教員としてこの授業に取り組む姿勢としては、企業会計とは異なる非営利組織会計の特殊性を理解してもらうために、できるだけ具体的な事例を用いて説明する。そのうえで、現行基準の理解にとどまらず、問題点についても考える力を身につけてもらいたい。本講義では、企業会計基準および理論を理解していることを前提として講義を進めるので、企業会計基準および理論の理解に不安のあるものはオフィスアワーを利用して相談に来てください。	
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ：イントロダクション： 内 容：非営利組織とは何か
第2回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点①

第3回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点②
第4回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点①
第5回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点②
第6回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：昭和60年公益法人会計基準
第7回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成10年NPO法人会計
第8回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成12年社会福祉法人会計基準
第9回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成13年宗教法人会計
第10回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成16年公益法人会計基準
第11回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成20年公益法人会計基準
第12回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成22年NPO法人会計基準
第13回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：米国における非営利組織会計
第14回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
第15回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
定期試験	筆記試験

<b>〔科目名〕</b>  職業指導	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職科目(教科必修) 経営学科(選択)
<b>〔担当者〕</b> 内海 隆 Uchiumi Takashi	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 後日指定 <b>場所:</b> 504研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 本科目は、高等学校商業科の教員免許状取得の必須科目であることを踏まえながら、個人が職業を選択する過程において、学校で行われる職業指導(近年は「進路指導」として取り扱われていることが多い。)がどのような意義をもち、どのように機能しているのか。また、実際の場面において、どのような指導が行われているのかなど、教員免許状の対象である高等学校の教育段階に限定しないで、職業指導・進路指導についての基本的な理論・考え方をキャリア教育と関連させて講義を進めていく。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 教職の専門科目である「進路指導の理論と方法」と内容的に重複する部分があるが、教科としての職業指導の経緯などを理解することになるので、結果として進路指導やキャリア・ガイダンス等についての理論と方法の習得につながる。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 本科目では、職業指導・進路指導をどう捉え、どう理解するかを第一のねらいにしている。したがって、今日のキャリア教育(論)の経緯などにも触れながら、講義全体を通じて、望ましい就労観、職業観の確立に努める。なお、学士力や社会人の基礎力にも通ずる自己のライフ・デザインの確立と自他との交流(リレーション)する力を身につけるため、講義形式のほか意見を求める双方向の授業やエクササイズも取り入れた授業展開をする。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 経営学科の専門科目ではあるが、商業の免許状を取得する際の必須科目である。教職課程の教科に関する科目としてはボリュームのある4単位(30時間)であるにもかかわらず、教職課程履修者以外の受講した学生も多いので、エクササイズや発表なども積極的に導入した授業展開を予定している。また、授業回数が多いので、内容の節目で「まとめと確認」を行う。		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない。		
<b>〔指定図書〕</b> 特に指定しない。		
<b>〔参考書〕</b> 寺田 盛紀『日本の職業教育』晃洋書房 石岡 学『「教育」としての職業指導の成立』勁草書房 文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(HPで確認できる)		
<b>〔前提科目〕</b> 教職課程の履修科目である「進路指導の理論と方法」のほか「キャリア形成論」など。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 授業中の調査・回答をはじめとする授業への参加姿勢およびレポート等の提出(3回)で7割、特にライフ・デザイン力をみる「ライフ・ダイアグラム」の作成・提出(3割)で総合的に評価する。詳細は、講義のオリエンテーション時に説明する。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> A:100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49～ 0点		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>1) 授業に必要な資料等は事前及び随時配布するので、特に事前に配布されたプリント等は重要箇所をマークするなどの準備をすること。</p> <p>2) 通常の講義形式の授業形態のほかにもグループでのワークショップなども実施する予定であるので、教職課程を履修していない学生であっても授業への積極的な参画を期待する。なお、欠席した場合には、資料等の配付が限定されることもあるので、事前はもとより、事後でも理由等も含めて教員に連絡・報告をすること。</p> <p>3) レポート等の提出物は、期限を遵守すること。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション</p> <p>内 容: 科目「職業指導」の概要、講義スケジュール、「評価」と基準について 「職」の世界と「役」の世界、ココ・シャネルの言葉、ユネスコの「学習権宣言」ほか</p> <p>教科書・指定図書 スライド(PP)に投影</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 職業指導と進路指導</p> <p>内 容: 職業指導、進路指導の定義の違い 「キャリア」の定義、「就業」を考える</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 職業指導と進路指導の歴史</p> <p>内 容: アメリカの職業紹介、社会福祉・厚生教育 わが国の職業指導、進路指導の歴史の変遷、</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 高等学校における職業指導</p> <p>内 容: 高等学校の教育目標 高校生を取りまく社会変化の理解と職業教育 高等学校段階でのキャリア発達課題</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生活・生産技術の教育の歴史</p> <p>内 容: 「生活、生産と教育」の結合と体系化 「家庭科」教育の歴史 「専門高校」の役割と教育課題</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 自己理解と表現力の向上…<u>エクササイズ①</u></p> <p>内 容: 自己理解と分析(自分を知るー自分をつくる・育てるー自分を伝える) 自尊感情と表現力について</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア教育への接近</p> <p>内 容: マーランド(アメリカ)長官の「キャリア教育宣言」 キャリア教育のカリキュラム・マネジメント</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 海外での職業教育とキャリア教育</p> <p>内 容: アメリカ、ドイツと日本の教育の違い(DVD 視聴)</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア発達理論(Ⅰ)</p> <p>内 容: ハヴィガーストの発達理論 エリクソンのライフサイクル論</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア発達理論(Ⅱ)</p> <p>内 容: ギンズバーグの発達理論 スーパーの発達理論</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア発達研究</p> <p>内 容: エド・シャインの理論とキャリア・アンカー</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 対人関係論・・・<u>エクササイズ②</u></p> <p>内 容: ニクラス・ルーマンに学ぶ対人関係</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本のキャリア教育</p> <p>内 容: 小・中・高校のキャリア教育の連携 中央教育審議会答申とキャリア教育への期待</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア教育計画と運営</p> <p>内 容: キャリア教育計画のキーワード キャリア教育計画と評価</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 職業、進路指導に関するレポートを読む</p> <p>内 容: 労働政策研究・研修機構のレポートを読む・・・<u>レポート提出①</u></p> <p>教科書・指定図書 プリント配布</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 職業、進路指導と適性</p> <p>内 容: 職業発達概念 ホランドの職業的パーソナリティ理論</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 体験学習論</p> <p>内 容: ジョブ・シャドウイングの実践と課題 インターンシップの実践と課題</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 各種適性検査</p> <p>内 容: 職業レディネステスト、SPI、YG 検査ほか</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 職業適性検査・・・<u>エクササイズ③</u></p> <p>内 容: ホランドの六角形、OHBY カードほか</p> <p>教科書・指定図書 OBHY カード・解説書</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア・カウンセリングからキャリア・コンサルティングへ</p> <p>内 容: キャリア・カウンセリング(CC)とキャリア・アドバイザー(CA) キャリア・コンサルティングを支える理論</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>

第21回	<p>テーマ(何を学ぶか): キャリア・エクササイズの理論と方法          内 容: キャリア・コンサルテーションの模擬練習…<u>レポート提出②</u></p> <p>教科書・指定図書 資料配付・説明</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): 組織文化論          内 容: コンティンジェンシー理論          日本的経営と集団主義</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人間関係と職場環境          内 容: 職場環境、対人関係論、リーダーシップ論</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業(社会)に有用な人材育成とコンピテンシー          内 容: マクレガーの「X理論・Y理論」、ヒューマン・コンピタンス論          オリエンタルランドの「人財」育成、マクドナルドとユニクロの人材育成          青公大OB・OG達の「自立した社会人」観</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 諸外国における就業問題          内 容: アメリカ、イギリス、ドイツ、中国のキャリア教育と就業問題</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 大学生の「就業力」と「新社会人基礎力」          内 容: 大学でのキャリア教育、「キャリア大学」アワード紹介          人生100年時代の「新社会人基礎力」(経済産業省)</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): 現代の就業問題の周辺          内 容: フリーター、ニート等の諸課題…<u>レポート提出③</u>          国内企業の採用の取組、インクルーシブ社会と雇用</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): 雇用と労働に関する法制と社会保障制度          内 容: 雇用と労働政策(雇用均等法)、労働基準法、労働組合          男女共同参画社会とジェンダーバイアスほか</p> <p>教科書・指定図書</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): ライフ・デザインとライフ・ダイヤグラム          内 容: ライフ・デザイン論          ライフ・ダイヤグラム(人生の運行表)…<u>レポート提出④</u></p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): 職業・進路指導の総括          内 容: キャリア教育の3つの分野、段階別職業指導法、規範意識、職業倫理の理解と高揚          職業指導に関する頻出用語(プリント配布)</p> <p>教科書・指定図書 配布プリント</p>
試験	<p>期末試験は実施しない。課題「ライフ・ダイヤグラム」ほかレポート提出</p>

<b>〔科目名〕</b> 税 務 会 計Ⅱ (法人税法)	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択科目
<b>〔担当者〕</b> 金 子 輝 雄	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 研究室入口に表示 <b>場所:</b> 513	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> <p>最近の新聞報道によれば、ソフトバンクグループ(SBG)はここ15年間、そこそこの業績を上げながら、法人税を殆ど納めていないというが、なぜだろうか。本講義では、会社(法人)に対する所得課税を規定している法人税法を扱う。法人の所得は、基本的に、企業会計で算定される利益を基礎として計算されるのであるが、税法の目的と企業会計の目的が相違するため、所得と利益は同一ではない。税法は一定の法人観を前提に、課税の公平および税収の確保の観点から詳細かつ画一的な定めを行っているのに対して、企業会計は国際会計基準も含めて業績測定は経営者の主張の一つであるとして経理の自由が重んじられ、概略的かつ選択的な規制が行われている。例えば、減価償却や引当金などの見積計算項目および交際費、寄付金、役員給与等の自主的支出項目については課税所得の調整および圧縮の手段とならないよう法人税法では特に条文を定めてこれらを規制しているが、企業会計にはこのような視点はない。だからといって所得の計算と利益の計算を別々に行うのは煩雑であるので、現実には両者の異なる部分を会計利益に調整を加えるというやり方で所得の導出が行われている。また、健全な会計を実践する納税者に対して青色申告という特典が税法には設けられており、企業は節税のために税法で指定された会計処理を行い、さらには経営活動自体を意識的にコントロールすることも多々見られるところである。現実の企業会計実務はこのように会計と税法が相互一体となった形で実施されているのであり、このような関係を明らかにしてゆくのが税務会計の目的である。</p> <p>以下に示す授業スケジュールにあるように法人税法の体系に沿って、個々の規定の内容を計算問題演習を交えながら解説し、最終的に納付税額の計算が各人でできるようになることを目標としているが、同時に、制度の趣旨・背景および重要判例に言及し法的な素養を身に付けてもらいたいと考えている。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人(自然人)だけではなく法人も節税を視野に入れた意思決定を行うことが多い。その必要性は言うまでもない。</li> <li>・損益計算書の末尾に記載される「法人税等」の計算ができなければ財務会計は完結しない。</li> <li>・日商簿記検定試験2級以上では「税効果会計」が出題範囲となっているが、本講義は根本的な理解に役立つ。</li> <li>・法人税法能力検定試験2級合格、ファイナンシャル・プランナ(FP)1から3級におけるタックス・プランニング対策。</li> <li>・税理試験「法人税法」の受験準備(本試験はより高度であるが、概要把握には役立つ)。</li> <li>・マクロ的な関心のある人は経済学科の「財政学」と関連付けて学ばれるとよい。</li> </ul>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>全国経理学校協会主催「法人税法能力検定試験」2級合格レベルのマスターを最終目標とする。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 全国経理教育協会 編『演習法人税法 <最新版>』清文社		
<b>〔指定図書〕</b> 企業分析研究会『現代日本の企業分析』新日本出版社 2018年		
<b>〔参考書〕</b> 谷口勢津夫他『基礎から学べる租税法<最新版>』弘文堂		

<p>〔前提科目〕</p> <p>会計学基礎論、税務会計Ⅰ、出来れば財務会計論も履修済みが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験（問題のレベルは3級と2級の間程度を予定）の成績を基本とする(70%)。</li> <li>・他に、レポート課題を課す。(20%)</li> <li>・重要な用語や計算の確認のために、毎回、出席カードを配布する。(10%)</li> </ul>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>「学生便覧」に準拠します。</p> <p>80点以上はA、70～79点がB、60～69点がC、50～59点がD、49点以下がF。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>法人税法は複雑・難解といえる。会計とのかかわりが深い税目であることから、会計知識がところどころで要求される。棚卸資産の評価方法や減価償却計算は既知のものとして進めてゆくの、あいまいな人は会計学・財務会計論の復習をする必要がある。まずは、会計損益と税務調整の関係を中心に、税額計算に至るまでの全体の流れを把握していただきたい。また、指定した教科書には、各章末に練習問題が用意されていますので、可能な限り解答を試みていただきたい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、複雑化する税制と企業活動の係わりを学び、税務会計及び税法学の理解を深める授業。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス</p> <p>内 容: 法人税のあらましと総則(納税義務者と課税所得の範囲)</p> <p>教科書・指定図書 第1・2章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 所得とは</p> <p>内 容: 法人税法上の所得と会計利益との関係、調整計算</p> <p>教科書・指定図書 第3章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 損益の期間帰属</p> <p>内 容: 収益・費用の計上時期とその特例</p> <p>教科書・指定図書 第4章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 棚卸資産</p> <p>内 容: 棚卸資産の範囲、取得原価の決定と期末評価の方法</p> <p>教科書・指定図書 第5章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 減価償却(1)</p> <p>内 容: 資本的支出と修繕費、減価償却方法(200%償却法を中心に)</p> <p>教科書・指定図書 第6章</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):減価償却(2)</p> <p>内 容:減価償却限度超過額または不足額の調整</p> <p>教科書・指定図書 第6章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):繰延資産</p> <p>内 容:繰延資産の範囲と償却期間</p> <p>教科書・指定図書 第7章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):役員給与</p> <p>内 容:税法上の役員範囲および過大役員報酬・賞与・退職給与の損金不算入</p> <p>教科書・指定図書 第8章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):租税公課と寄付金</p> <p>内 容: 損金となる税金と損金にならない税金、罰課金の取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 第10・11章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):寄付金・交際費</p> <p>内 容: 寄付金・交際費の損金算入限度額と類似費目</p> <p>教科書・指定図書 第11章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):貸倒引当金</p> <p>内 容:貸倒損失の認定と貸倒引当金繰入限度額</p> <p>教科書・指定図書 第12章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):圧縮記帳</p> <p>内 容:国庫補助金、保険差益、交換の圧縮記帳</p> <p>教科書・指定図書 第13章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):受取配当等の益金不算入と有価証券課税</p> <p>内 容:所有株式等の区分と益金不算入割合および有価証券評価損益・譲渡損益の取り扱い</p> <p>教科書・指定図書 第14・15章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):欠損金の繰越控除と税効果会計</p> <p>内 容:欠損金の繰越控除、申告調整と別表四および税効果会計の関連について</p> <p>教科書・指定図書 第16・17章および追加プリント</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):税額計算と演習問題</p> <p>内 容:期末試験や検定試験を意識した総合問題演習</p> <p>教科書・指定図書 第18・23章</p>
定期試験	

<p>[科目名]</p> <p><b>開発経済学—貧困(束縛)からの自由を求めて</b></p> <p>—「共創空間」で貧しき経済人の生き方を問い直す旅—</p>	<p>[単位数]</p> <p>2単位</p>	<p>[科目区分]</p>
<p>[担当者]</p> <p>大場裕之 Oba Hiroyuki</p>	<p>[オフィス・アワー]</p> <p>時間:集中講義中、いつでもOK 場所:教室、教員控室</p>	<p>[E-mail]</p> <p>hooba@reitaku-u.ac.jp</p>
<p>[科目の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この科目では、開発経済学(近代経済学)が前提とする人間観(合理的経済人)を示した上で、「共創」の視点から、その人間観、特に<b>心貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド)を身に着けること</b>を狙いとす。</li> <li>この目的のために、ビデオ教材を用いて、日本や世界を共に旅をしながら、旅先の心貧しき経済人(経済的に豊かな人も含む)の生き方について、共創技法(共創空間開発、略称 CSD)によって、「問い(問題)」や様々な「答え」を発見すると同時に、彼らを「鏡」として日本人や自分の生き方を問い直す。</li> <li>旅先としては、日本(青森県)や、成長著しい南アジア(インド・ブータン)とする。「自由」、「豊かさ」、「幸福」、「健康」、「飢え渴き」、「日本化」などをキーワードとして、貧しき経済人の生き方を具体的に考える。</li> <li>この科目で実践する「共創」の旅を通じて、“経済人(の合理性)”の魅力と落とし穴に気づき、“共創人”として、日々の生き方の質、人生の質を高めるヒントを掴むことが期待されている。</li> </ul>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[学んだことは、何に結びつくか]</p> <p>・この科目は、経営学や心理学、開発論、モチベーション論、コミュニケーション論、意思決定論、ライフスタイル論などと関連しており、一つの専門分野だけでは、解決できない問題を取り上げる。</p> <p>・学んだことは何に結びつくのか？</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「共創マインド」を習得することによって、日々の生き方・生活の質を引き上げ、人生の様々な局面における価値判断や意思決定をする時に役に立つ。</li> <li>② 「共創マインド」を習得した<b>人財</b>として、将来のあらゆる職業(国際機関、国、地方団体、民間企業、NPO機関など)に結びつき、経済開発だけでなく、商品開発、人材開発、地域開発、社会開発、モチベーション開発などのプロフェッショナルとして、また問題発見・問題解決能力を有する&lt;共創&gt;エキスパートとして活躍できる。</li> </ol>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 4つのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済合理性の視点を吟味し、「共創的視点」を持つために、CSD 技法を実践すること。</li> <li>・「共創空間」でキャッチボールしながら、具体的な問いを発見し、1+1=2 だけではない答えを探究すること。</li> <li>・貧しき経済人の考え方・感じ方を CSD 技法によって、具体的かつ客観的に「見える化」し、どこに問題があるのか、共に発見し、その原因と解決策を明らかにするスキル (<b>価値判断力、問題発見・解決力、コミュニケーション力などコア・ライフ・スキル</b>) を習得すること。具体的には、聴く耳を持てるようになること、自己表現力を身につけることができること、他者との協働による“気づき”が可能となること、プレゼンテーション能力およびリポーター能力を磨くこと。</li> <li>・「共創空間」で共有化された問題を考えることにより、学ぶことの意味や意義が明確となり、自分の生き方と向き合うことによって、<b>生きる意欲</b>が生み出され、自らの日々の意思決定や将来設計に役立つ。</li> </ul>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <b>2022/6(一部19年と20年)</b></p> <p>(1) 授業評価に関する全体的な印象</p> <p>授業中の真剣な態度とアンケートの設問(全 11 項目)に対する前向きな回答とがほぼ一致していたので、嬉しい限りです。より達成感のある授業を目指すために、以下の 5 点について、確認し、より明確化し、受講生とともに、共有化したいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 問1 (授業内容はシラバスと合っているか) について: シラバスはあくまでもガイドライン (昨年度の実績ベース) であり、授業は、キャッチボールしながら学生たちと共に創っていくスタイルなので、シラバス自体が毎年カイゼンされることを了解願いたい。</li> <li>② 問2 (成績評価の基準の明確化) について: 最初の授業で明確に基準を提示するので、最初の授業を逃さないように。基本的には、<b>学習態度と学習成果を評価</b>する。具体的には、授業で実施する「<b>共創空間</b>」での<b>貢献度(活動成果)と共創レポートによって評価</b>する。</li> <li>③ 問3 (質の高い授業内容) について: 質の高さは、新しい知見が得られる達成度の高い授業を目指している。あるテーマについての固定観念から解放され多様な視点を身に着けること、また、ものごとの本質を捉える能力を磨くことに主眼を置いている (後述の学生から提起された改善の提案や要望の項目を参考)。</li> </ol>		

④ 問9 (学生の質問・相談への配慮) について: 集中講義という性格から、短期間なので、授業中もしくは授業開始前や終了後に相談に乗ります。

⑤ 問10 (自習時間) について: 集中講義なので、**講義を受講するにあたって予習する課題 (事前学習) の時間と講義終了後に実施するレポート作成の時間 (見込み) を「自習時間」と見做してください。**

(この授業を通じて、開発の新たな意味の発見や、開発経済学的前提となる、いわゆる“合理的経済人”を問い直すことの大切さを参加者全員で体験・共有化することは、大学生生活や就職だけではなく、必ず一生の宝となるはずです。)

(2) 自由記載欄の学生の意見とそれに対するコメント (⇒の部分)

#### (優れた点)

・学生の意見を尊重し、学生と共に授業を作り上げていくスタイルが他の授業にないオリジナルかつ面白い授業であると思います。考えることが苦手な私でも集中して興味深く取り込みました。

・常に面白く、ジョークを交えながら、真面目に意見交換のできる質の高い授業を受けることができ、幸せでした。

・ゼミで行っているディスカッションとは違う、ホワイトボードを使った共創マトリックスは、とても内容が濃く、新鮮でした。⇒「共創空間」を創るプロセスの中で、**価値観の異なる他者と向き合うこと、そして自分と向き合うことができる。1人1人の自由意思が尊重され、自由を味わうことができる。新たな価値創造を体験できる。**

・共創マトリックスを使って、様々な意見を聴きながら、いろいろな見方ができる。

・共創マトリックスを使って様々な設問 (問いの発見) を考えていくことが非常に楽しかったし、勉強になったこと。問いを見つかったり、考え方を知ったり、自分にとって非常に貴重で有意義な時間を得ることができた。15回ではなく、30回の講義でもっと時間をかけて勉強したかったです。

・(ビデオ教材の) 映像を見てよりよく知ることができた。自分の価値観が変わった。

・コミュニケーションを大事にしている点。楽しい!

・自分の意見は勿論、他の人の意見をよく知ることができ、自分の知識として蓄積されるという点。

・なぜこの授業が集中講義なのかというくらい、みんなに受けて欲しい授業だなと感じました。

・ホワイトボードなどを用いて、共創空間を考察するため、自分が教員になったつもりで積極的に参加できること。

#### (問題点)

・学生数が少ないと意見の数も少ないので、もう少し人数が欲しかった。⇒是非、参加してみてください!!

#### (改善の提案や要望)

・(特になし)

以上

#### (学生に一言アドバイス)

1. アンケート調査の質問項目の9 (オフィスアワー等) については、集中講義という短期間なので、講義時間や休憩時間で質問や相談に応じられるように工夫しているので、評価するときはそこを考慮してください。

2. また、質問項目の10 (週当たりの自習時間) については、成果レポート (「共創レポート」という名称) を作成する時間も織り込んで自己評価してください。

3. 質問項目の1のシラバスと内容が合っているかという問いについては、これは教員が一方的にボールを投げるという前提となっている。しかし、本講義では、シラバス体も、「**学生と共に創る**」という点を評価しているので、どれだけ教員と学生間でキャッチボールされた内容となるのかを評価してみてください。

(念のために) この講義では、開発経済学的前提そのものを問題 (合理的経済人の意識・行動) とする「共創空間開発論」の視点で旅します。講義のはじめに、その理由を学生諸君と共に考えたいと思っています。具体的には、開発経済学の基本的な問題と授業で実施する内容 (問題=「共創空間」開発) との違い・強調点を明確に示し、双方で合意、納得した上で授業をしたいと思っています。両者とも、共通しているのが貧困 (欠乏) 問題ですが、前者は「**経済的貧困**」に限定しているのに対し、後者は「**経済人の貧困**」を問題としている点が大きな違いです。

#### [教科書] (事前に配布予定)

大場裕之+ライフスタイル研究会[2013]『「共創空間」で地球を旅しよう～ライフスタイルの再発見～』  
(Working Paper No. 56) 麗澤大学経済社会総合研究センター。

#### [指定図書]

なし

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大場裕之+「共創空間」開発プロジェクトチーム[2015]『共創空間開発学のすすめ—知のイノベーションの新技法』麗澤大学出版会。</li> <li>・大場裕之+ライフスタイル研究会[2015]『“共創空間”を開発することの学問的意義—「共創空間開発学」の構築を目指して—』(Working Paper No. 68) 麗澤大学経済社会総合研究センター。</li> <li>・大場裕之+大場ゼミナール[2007]『学問力のすすめ—“活かす”学問を楽しむために』麗澤大学出版会。</li> <li>・田中拓男[2006]『開発論—こころの知性』中央大学出版部。</li> <li>・我妻和男編著[2005]『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会。</li> </ul>	
<p>【参考書】 授業時に必要に応じ提示</p>	
<p>【前提科目】 なし</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースプラン、内容などについての詳細は、授業の開始時に担当の教員から指示される。</li> <li>・<b>事前学習として、配布されたテキストを読んで、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどをレポートにすることを課す。</b></li> <li>・授業中にディスカッションのために必要となる基本的知識を習得するためのクイズ形式の課題を毎回行う。</li> <li>・共創マトリックス手法を活用した全員参加型の授業を行うため、そのための予習・復習が必要となる。</li> <li>・ディスカッションによって得られた成果やさらなる問題・疑問について、発見メモを作成すること。</li> <li>・この講義を通じて最も関心を持ったことや役に立ったことについて発表するチャンスを用意する。</li> <li>・この講義の最後には、5日間を振り返る総括討論を予定している。</li> <li>・<b>期末試験は実施せず、達成度(学習成果)を評価する「共創」レポートに置き換える。</b></li> </ul>	
<p>【評価の基準及びスケール】</p> <p>成績評価は、「共創空間」の体験に基づく、「共創＝スマイル」評価に基づいて実施する。「共創」評価は、達成度と社会貢献度という2つの基準によって構成される。評価基準のウェイト付けは、各々50%とする。その詳細は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 達成度 (60%) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) <b>事前テキスト学習レポート (A4サイズ: 1~2枚程度)</b></li> <li>2) 出席状況</li> <li>3) 発見メモの提出 (毎日の授業終了時、5回)</li> <li>4) 「共創」レポート (「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの) 提出期限: <b>2023年01月23日</b> (予定)</li> </ol> </li> <li>2. 社会貢献度 (40%) 「社会」とはこの講義に参加した受講者への貢献を指す。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「共創マトリックス (共有化ツール)」(マグネット使用) への参加</li> <li>2) ディスカッション (ボールによるキャッチボール) への参加</li> <li>3) プレゼン (事前課題プレゼンで始まり、振り返りプレゼンで終わる)</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としてこの授業に取り組む姿勢 この科目は、開発経済学が前提としている人間モデルを問う新しい試みであるので、現行の学問の専門知識にのめりこまずに、問題を発見すること、関心を持つこと、高めることに主眼を置いている。また、“ラクする楽しみ”ではなく、“共に創造する楽しみ”を共有すること念頭において取り組む。さらに、「共創空間」というスペースの中をタイムマシンの飛行機(?)に乗って、現在の地球だけではなく、過去と近未来の地球を飛び回ることによって、学生諸君一人一人の「よい(良い・善い)生活・人生」探しのためのヒントを提供したいと思っている。</li> <li>・学生への要望 対話形式、キャッチボール(ドッチボールではない)スタイルの講義なので、積極的な学生が望まれる。講義の基本方針に基づき、自由に意見を言える場なので、その主旨を十分理解し、各自が責任をもって参加すること。なお、「共創」レポートの書き方については、授業時に説明する。ただ単に知識を鵜呑みにせず、絶えず問うことを大切にしてほしい。また、楽(ラク)する楽しみではなく、“脳ミソに汗をかく”楽しみ方を是非発見してほしい。</li> </ul>	
<p>授業スケジュール(受講生のニーズに基づいて一部変更する可能性あり)</p>	
<p>DAY 1 (12/21) 旅立ち スマイル</p>	<p><b>テーマ1</b>: 貧しき経済人を問題とする旅— 開発経済学が前提とする“経済合理的人間”の貧しさとは?</p> <p>内 容: 経済合理的(損得で動く)人間に存在する貧しさを吟味する共創への旅によろそ!</p> <p>◎学問力のすすめ 気づいたこと、おやっと思ったこと、「問い」を発見する意欲が欠乏している?</p>

<p>1～3 講</p> <p>「共創空間」の中で日本からインドへ旅立つ</p> <p>束縛からの自由を求める希望の旅</p>	<p>この意欲の欠乏こそが、「貧しさ」の正体。従って、意欲だけではなく、様々な欠乏を探す旅となる。</p> <p>わたしたちは、<b>経済人</b>ですか(自分を<b>経済人</b>と思ったときある)? <b>好き・嫌い?</b></p> <p><b>経済人としての貧しさ(欠乏):</b> 気づいている、それとも気づいていない?</p> <p>⇒<b>貧しき経済人</b>とは、「自分は正しい」として、<b>他者軸</b>の欠乏した自己中心的人間。</p> <p><b>旅立ち: 関心のある経済人? 音楽好きな経済人??</b> この<b>経済人の「貧しさ」とは何???</b></p> <p>⇒「音楽」が共通ボール。好きな音楽・嫌いな音楽=よい音楽・嫌いな音楽? 「1+1=2?の発見</p> <p><b>☆公立大学でのキャンパスライフ、楽しんでるか=ラクしてるか?</b></p> <p>「ラクして楽しむ」合理的な生き方がなぜダメなのか?</p> <p><b>テーマ2:</b> 貧しき経済人がたどる人類の道とは?</p> <p>内 容: 「束縛から束縛」への道(仮説)を提示する。①束縛(貧困)からの欠乏している自由を求める希望の旅、②自由から欠乏している富を求める飛躍の旅、③富から欠乏している自己満足を求める安楽の旅、④自己満足から無関心に支配される暗闇の旅、⑤無関心から束縛(貧困)への暗黒の旅、⑥束縛(貧困)の悪循環から欠乏する真の自由、真の豊かさへ脱却するヒントをつかむ旅。 ⇒「1+1=2?」へのチャレンジ 2以外の答えに気づかなくなった<b>経済人</b>を問題視。</p> <p>⇒果たして“<b>経済人</b>”は束縛(貧困)の罠から脱出できるのだろうか?</p> <p><u>経済人から「共創人」モデルへシフトし、i「共創マインド」を持つことが脱出の糸口。</u></p> <p><b>テーマ3:</b> インド映画『きっと、うまくいく』(前半 85 分)を観て、<b>貧しき経済人</b>を探す旅:</p> <p>内 容: インド映画に登場する若い<b>経済人</b>の素顔を知り、関心を持つ=「問い」を発見すること。</p> <p>&lt;教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による&gt;</p>
<p><b>DAY 2</b> (12/22)</p> <p><b>花</b></p> <p>4～6 講</p> <p>インド: 自由から富を求める飛躍の旅</p>	<p><b>テーマ4:</b> インド映画『きっと、うまくいく』(前半)を観て、<b>自由と富を求める、貧しき経済人</b>を考える旅:</p> <p>内 容: <b>映画に登場する人物: どのような自由を求めているのか? ラクする自由には“落とし穴”がある? &lt;楽しむ自由にも“落とし穴”がある? &gt;</b></p> <p>・自分たちに関わる重要な問い(=大学教育)を立て、共創(コクリ)する。問い1: <b>大学(教育)とは点の取り方を教えるところ? 問い2: 大学(教育)は、人生の競争に勝つためのものか?</b></p> <p><b>大学教育に対する見方において、どの自由を選ぶか?</b></p> <p><b>自由を得ると、人は富を求めるのか?</b></p> <p><b>経済的富: 「おカネがすべて」なのか?</b></p> <p>夢を与える仕事とどう関連するのか? —インド<b>経済人</b>を「鏡」として考える—</p> <p>「人生は競争」なのか (欠乏ゆえに) どのような自由を求めているのか?</p> <p><u>束縛からの自由、そして、富への自由。</u></p> <p>カネがあれば何でも(買うことが)できる? 過去の時間と現在・未来の時間: <u>今の時間も?</u></p> <p>いのちや愛も?</p> <p>移動時間(タクシー代行サービス、飛行機か新幹線か?)、家事労働時間、 講義ノート代行サービス、……</p> <p>遊び時間をカネで買う<b>経済人</b>(友人・知人)に講義ノート貸してくれ、と頼まれたとき、引き受けるか、それとも引き受けない?</p> <p>⇒<b>損得的判断基準</b>を問う。自分本位的(自分にとってメリットがあれば OK)か 他者本位的か?</p> <p>⇒思いやりや信頼、友人愛という基準で判断しているのか? (非合理的判断かもしれないが)</p> <p>(参考 1): 「富」はなぜ拡大したのか? W.バースタイン仮説 過去 200 年: 持続的な富の増大 なぜ可能となったのか? ①私有財産制 (中国説明できる?)、②科学的合理主義、③ふんだんな資金が効率的に投資に向かうような資本市場、④強力かつ効率的な輸送・通信手段</p> <p>(参考 2): <u>金持ち=モノの豊かさ=心の豊かな人間⇒幸福な人間なのか</u></p> <p>人間とは心豊かな生き物と思うか? という問いかけに対して、NO 派の意見。</p> <p>人間は貧しいがゆえに、豊さを求めるとすれば、人間とは本質的「貧しい」存在なのではないか。</p> <p>サービスからのアプローチ (テキスト学問力のすすめを活用)</p> <p>奪い合う生き物か、分かち合う生き物なのか? 所有欲・支配欲が暴力を生みだすのか。</p> <p>人間の本質には暴力がある? なぜ、人は暴力を愛するのか?</p>

	<p><b>テーマ5:</b> インド映画『きっと、うまくいく』(後半 85 分)を観て: 富を求める経済人を観察する</p> <p>内 容: 金持ちになりたい? ビジネス(経済的富の追求)は何のためなのか? インドからの答えとは? カネを稼ぐのが目的ではなく、稼いだカネを社会に還元すること(与える)</p> <p>(参考)インド経済人のチャレンジ: インドタタの挑戦—“ナノ”という世界一安い低価格車の登場(スモーク国民車インディカもタタによる)</p> <p>ラタンタタ会長: スクーターに乗る家族の姿をみて、夢が生まれた。そして、庶民に夢を与えたい!</p> <p><b>テーマ6:</b> インド映画『きっと、うまくいく』を振りかえって: 富を求める経済人を吟味。</p> <p>内 容: インド映画『きっと、うまくいく』を観て、自分たちに関わる問い(成功者とは)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 人生の成功者は登場人物の中にいる? 問い 2: 成功者とは金持ちなのか &lt;エクセレント(優秀)な人生? &gt;</p> <p>(代替案)</p> <p>「カネのための仕事」に対する判断基準(したい・したくないというモノサシ)と「青森(地元)に夢を与える仕事」に対する判断基準(できる・できないというモノサシ)をクロスすると何が見えてきたのか?</p> <p>内 容: 「将来の夢」とは一体何か? 自己の幸せを願う自己実現的な夢なのか、他者の幸せを願う夢なのか。どちらを優先して今仕事(勉学)しているのか? これからも同じなのか?</p> <p>仕事に対する欲求(動機)はおカネを稼ぐためか?</p> <p>となれば、仕事のやりがいとは二次的となる? あるいはカネ稼ぎが生きがいなのか?</p> <p>仕事したくない⇒仕事したい シフト可能か?</p> <p><u>仕事に夢がある=仕事に哲学(生き方)必要なのか</u></p> <p>(参考): 職業の選択の自由と立ちはだかる壁とは?</p> <p>よい職業へのあこがれ、膨大な若者労働市場。職業選択の自由は拡大しているのか?</p> <p>カースト・フリーと言われるITソフト産業、職業選択の自由を阻む壁とは?</p> <p>&lt;教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による&gt;</p>
<p><b>DAY 3</b> (12/23)</p> <p>自転車 7~9 講</p> <p>インドからブータンへ: 富から自己満足を求める快樂の旅</p> <p>無関心となる暗闇の旅</p>	<p><b>テーマ7:</b> インドからブータンへ: 幸福と自己満足を求める経済人を考える旅</p> <p>内 容: ビデオ教材によって、幸福の国ブータンの経済人の素顔を知る</p> <p><b>嵐・幸福の国ブータン、あるいはブータン幸福度調査を観て、共創する。</b></p> <p><b>義務を守れば幸せになれるのか、</b></p> <p><b>「幸せ」は一時的なのか (便利になれば、幸せになれるのか)</b></p> <p>(参考)義務: タバコ禁止(義務)、伝統的民族服の着用の義務、森林保護の義務、建築デザインの規制(義務)など。仏教的幸福の方程式=財/欲望 ホント?</p> <p>ブータンの幸福感=日本人の幸福感(個人主義的)? ブータンは、自分+他者、現世+来世</p> <p>御手洗瑞子(みたらいいたまこ)、[2012]『ブータン、これでいいのだ』新潮社。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブータンの幸福観を受け入れられるのか、</li> <li>・幸福な国ブータンの経済人を鏡として: カネ持ち、モノ持ちとなれば、幸せになれるのか?</li> </ul> <p>◎義務を守り、カネ・モノを愛すれば、幸せになることができるのか</p> <p>貧しい国の幸福な経済人⇔豊かな国の不幸な経済人? 首相の説(幸福≠喜び)?</p> <p>喜び⇒快樂では?</p> <p><b>テーマ8:</b> ブータン幸福度調査に関するビデオをもとにキャッチボール</p> <p>内 容: ブータンの経済人の幸福観を知ること。</p> <p>心豊かであれば幸せとなるかもしれないが……今は幸せですか? 「心の豊かさ」を求めていますか?</p> <p>(富から自己満足する快樂の旅—幸福度世界マップと先進国日本の事例):</p> <p>(参考2): 経済的富を手にした人間は幸福になれるのか? 富を得た人間のゴールは自己満足なのか? やる気を失う現代日本、ほんとか? 満足=幸福なのか? 満ち足りる満足と満ち足りない満足があるのでは? 物質的富の拡大は幸福度をアップさせるか? 人間の幸福追求は地球を不幸にするのか? (人間の幸福マップと不幸な地球マップ) 幸福大国ブータンから問題発見。</p>

	<p><b>テーマ9:</b>ブータンの経済人の幸福:理想と現実は同じなのか?</p> <p>内 容:ブータン幸福度調査の結果をもとに、共創する。          &lt;教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による&gt;</p>
<p><b>DAY 4</b> (12/24) エバの誕生 10~12講</p> <p>ブータン: 無関心がもたらす束縛(貧困)への暗黒の旅</p>	<p><b>テーマ10:</b>ブータンの経済人から:「幸せはどこに?」満足の中に? それとも愛の中に?</p> <p>&lt;一昨夜はクリスマスイブでしたね。いつアダムは生まれたか? &gt;</p> <p>内 容:「満足」する意味を考え、幸せとなるか否かという判断基準を明確にする。          (参考)「満足」する=精神的に満たされ、物質的に足りていること(仮説)。</p> <p><b>テーマ11:</b>満足する生き方と「足るを知る」生き方:どちらの道を選ぶか</p> <p>内 容: 満足する生き方の対極にある「足るを知る」生き方を明らかにする。          「足るを知る」生き方を実践すれば、愛欲から解放される? 愛と愛欲の違い。  <u>自分を犠牲にしても愛したい「何か」を持っていますか?</u> 自己愛の対極にある愛。          例えば、鶴のために自分の快適さ(欲望)を犠牲にしてもよいと考えるブータン人のように。</p> <p><b>テーマ12:</b>「自己満足すれば、幸福になれるのか?</p> <p>自己満足すると、無関心となるのはなぜ?          (参考)日本:生きづらい、無関心な人間が増えているのか? 「海外」に向き合っているのか?          アフガニスタンを支援する日本人医師の挑戦:「飢え渴きは薬では治せない」          「ODA(政府開発援助)」に無関心な日本人。海外人材育成に税金を支払うことは意味があるのか?          「日本」は海外で受け入れられているのか? 品質重視の日本的経営の事例。批判される過労死、ストレスというワーキングライフ。過酷なIT産業のワーキングライフの実態に迫る。          「インドでは、この仕事についている限り、結婚はできない」という悲鳴の声。          &lt;教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による&gt;</p>
<p><b>DAY 5</b> (12/25) 帰還 川はなぜリッチ? 13~15講</p> <p>インド・ブータンからの帰国</p> <p>「心の貧しさ」(束縛)と自我からの解放の旅</p>	<p><b>テーマ13:</b>インド・ブータンからの帰還:貧しき経済人が人生に求めてきたもの:自由・富・満足する生き方:その行きつくところとは、無関心と束縛。では、貧しき経済人は、何を求めて生きればよいのだろうか? 「病者の祈り」にみる祝福された貧しき経済人にそのヒントがあるのでは。</p> <p>内 容:経済人は何を求めて生きているのか? 経済人は、ほんとうの自由、ほんとうの豊かさに出会えるのだろうか? 科学的アプローチと宗教的アプローチを問う: 真理はどこにあるのか? 真理は体験して知るものでは?</p> <p><b>テーマ14:</b>「カイゼン」と「ジューガード」を実践する(経済人ではなく)共創人を目指して</p> <p>内 容: 心貧しき者経済人にとってのよき知らせ。共創空間に秘められた宝を明らかにし、共有化する。</p> <p><b>テーマ15:</b>貧しき経済人をめぐる共創の旅の総括:</p> <p>内 容:急成長するインド・幸福の国ブータンから、どんなメッセージを得たのか?  <u>「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド):身についたと思いますか?</u>          自分の生き方にインパクトがあったのか? 共創の旅からのプレゼント:1+1=9(の宝)          ・「貧しき経済人をめぐる共創レポート」作成にあたっての確認。</p> <p>&lt;教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による&gt;</p>

試験:「共創」レポート(「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの) 提出期限:2023年1月23日(予定)

<b>〔科目名〕</b> 金融機関論	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 展開科目
<b>〔担当者〕</b> 國方 明 Kunikata, Akira	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 第 1 回の授業で連絡します。 <b>場所:</b> 525 号室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>本科目では、金融機関とその行動を、主にミクロ経済学の理論を使って理解します。但し、時間が限られているので、金融機関のうち銀行を重点的に取り上げます。本科目でいう「銀行」は、預金取扱金融機関全般を指します。つまり、本科目の「銀行」は、〇〇銀行という名称で営業する株式会社だけでなく、信用金庫や信用組合なども含みます。本科目は以下の3つのパーツに分かれます：</p> <p>まず、パート1では、金融機関の制度的・歴史的側面を紹介します。例えば、日本では金融機関が銀行業、証券業や保険業などの業態に分かれ、相互参入が厳しく規制されてきました。また銀行業に限定すると、株式会社形態と協同組織形態の2つに大きく分かれ、前者は更に細かく都市銀行、地方銀行、第二地方銀行と信託銀行などに分かります。また制度を理解するためには、その制度が形成される過程つまり歴史的背景を学ぶことが有益です。</p> <p>次に、パート2では、ミクロ経済学の理論を応用して、銀行の存在意義、銀行行動、複数銀行が構成するシステムを議論します。ミクロ経済学の発展に伴い、(a) 1970年代まででは生産者理論の応用が、(b) 1980年代以降では「情報の経済学」や「不完備契約の理論」の応用が、それぞれ主流となってきました。また(b)は、個別銀行に対する公的介入や銀行システムに対する公的介入の議論につながっています。</p> <p>最後に、パート3で、銀行のリスク管理を教えます。</p> <p>なお、本科目は確かにミクロ経済学と深く関わります。しかし、本科目はマクロ経済学とも無関係ではありません。例えば、世界金融危機以降、銀行システムの安定性がマクロ経済学における一大論点になっています。また本科目で取り上げる銀行行動の理論や貸出の理論は、金融政策の波及経路を考える際の理論的基礎になります。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか」</b>		
<p>本科目の内容は、金融経済学の金融機関に関する内容を、より高度にしたものになっています。また、金融経済学やファイナンス理論で教えた証券投資の理論を、金融機関に応用します。</p>		
<b>「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか」</b>		
<p>金融機関の役割やその行動を、これまで学んできた経済学の知識を使って理解できるようになると期待します。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b>		
<p>最終目標：  ミクロ経済学の理論を使って、金融機関の役割やその行動を理解できるようになること。研究者向けの文献(例えば山沖義和・茶野 努 編著、『日本版ビッグバン以後の金融機関経営』、勁草書房、2019年)や植杉威一郎、「銀行-企業間関係と中小企業の資金調達——近年の研究動向——」、『経済研究』(一橋大学経済研究所)、Vol. 70, No. 2, pp. 146-167, 2019年4月)を適切に理解できるようになれば、この目標を達成できたと言えるでしょう。</p> <p>中間目標：  ● 基礎的な専門用語の意味を、正しく理解できるようになること。  ● ミクロ経済学の理論を金融機関へ応用するために、どのような工夫が必要なのかを理解すること。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>		
<p>2021年度の金融機関論では、非常に高い評価をいただきました。2022年度も引き続き高評価をいただけるように努めます。</p>		
<b>〔教科書〕</b>		
<p>本科目では教科書を使用せず、ハンドアウト(俗に言うプリント)を使って講義を進めます。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。</p>		
<b>〔指定図書〕</b>		
<p>該当無し。</p>		
<b>〔参考書〕</b>		
<p>内田浩史、『金融』、有斐閣、2016年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)</p>		
<b>〔前提科目〕</b>		
<p>ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、ゲーム論、金融経済学Ⅰ、金融経済学Ⅱおよびファイナンス理論</p>		

<p>上記6科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。</p>	
<p><b>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</b>  次の(ア)および(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。  (ア) 授業内小テスト1回。択一式です。  (イ) 期末試験。択一式と記述式の併用です。</p>	
<p><b>【評価の基準及びスケール】</b>  【学修の課題、評価の方法】に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。</p> <p>A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。</p>	
<p><b>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。</li> <li>● 本科目では、金融経済学やファイナンス理論などに基づく、かなり高度な理論を取り上げます。このため、金融経済学やファイナンス理論の一方または両方を履修しなかった人、あるいはこれら2科目の一方または両方でD以下の評価を得た人は相当苦勞するでしょう。該当する人は、履修するか否かを十分考えてください。</li> <li>● 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。</li> <li>● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。</li> </ul>	
<p><b>【実務経歴】</b>  公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、ミクロ経済学の理論を使って、銀行など金融機関の役割やその行動を理解する授業です。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>授業スケジュール</b>  (履修者の理解度、新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、変更する可能性があります。もし、変更が生じたら、授業内で連絡します。)</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 ガイダンスと金融機関の役割  内 容: 金融経済学Iで教えた直接金融と間接金融を手掛かりにして、金融機関の役割を復習します。  参考書 第8章～第10章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 金融機関の分類  内 容: わが国金融機関の分類を学びます。  参考書 第8章～第10章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 銀行業と銀行政策の歴史  内 容: わが国銀行業の歴史と、銀行に対する政策の歴史を学びます。  参考書 該当無し。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 銀行の業務  内 容: 銀行の業務を学びます。  参考書 第8章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 銀行の財務諸表と財務指標  内 容: 銀行の財務諸表と、財務指標を学びます。  参考書 第8章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2 (a) 銀行行動の理論: 確実性下  内 容: ミクロ経済学および応用ミクロ経済学で学んだ生産者理論を応用して、確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。  参考書 該当無し。</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(a) 銀行行動の理論:不確実性下          内 容:金融経済学やファイナンス理論で学んだ分散投資の理論を応用して、不確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。          参考書 該当無し。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択①          内 容:借り手企業の資金調達手段には、銀行借入以外に、社債発行や新株発行などがあります。しかし、特に中小企業では、銀行借入が主な資金調達手段になっています。そこで、「銀行借入には、他の資金調達手段にはない特殊性があるのではないか?」という疑問が浮かびます。第8回～第11回では、この疑問に取り組みます。          第8回では、阻害要因のうち逆選択という現象を学びます。          参考書 第4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択②          内 容:逆選択が存在するときの貸出市場を学びます。第9回授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。          参考書 第4章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 モラル・ハザード          内 容:阻害要因のうちモラル・ハザードという現象を学びます。          参考書 第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 銀行による阻害要因軽減          内 容:専門業者の銀行が貸出サービスを提供する結果、資源配分の非効率性が軽減される可能性を議論します。          参考書 第4章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 銀行のガバナンスと銀行への公的介入          内 容:銀行も民間企業的一种です。そこで、銀行(資金の借り手)と、預金者など利害関係者との間で、逆選択の問題やモラル・ハザードの問題が生じるかもしれません。第12回では、銀行や銀行経営者を規律付けて、これら問題を軽減するための社会的工夫を学びます。          参考書 第14章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク管理          内 容:第7回～第12回の議論で、リスクが重要な役割を果たしました。リスクやリスク管理は、銀行の利害関係者にとって一大関心事です。そこで、銀行がどのようなリスクに直面しているかを学びます。          参考書 第8章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク管理手法①          内 容:銀行のリスク管理手法を学びます。          参考書 第8章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):トピックス          内 容:最近の金融を理解するうえで重要なトピックスを、これまでの授業と関連づけて学びます。          指定図書 該当無し。</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。</p>

<b>〔科目名〕</b> 国際金融論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 中條 誠一 Seichi Nakajo	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>国際金融の基礎理論を踏まえて、実際に国際金融の業務がどのように行われているかという基本的な実務と現代の世界経済が直面している現実の問題を理解するための授業である。したがって、講義は国際金融の理論、実務、現実問題の3部構成から成っているが、いずれも初学者でも理解できるような分かりやすいものとする。</p> <p>特に、他の国際金融論の授業と異なるのは、最先端の国際金融の実務を取り上げ、平易にその仕組みを解説することによって、受講者が実際に活用できるような「現実に関与する国際金融論」となっている点である。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>現代の世界経済は、グローバル金融資本主義などと呼ばれるように、物やサービスの取引に必要な額を上回る資金がうごめき、たびたび国際金融における混乱が危機を発生させている。その影響は、われわれの日常生活にも及んでおり、国際金融の重要性が高まっている。</p> <p>そうした中では、グローバルな世界を舞台にした国際金融取引の原理や実態、それがもたらす混乱や危機を把握することが、国際人を目指す学生はもとより、国内ビジネスに従事する場合にも、一般常識として不可欠となっている。グローバル社会を生き抜くうえで必要不可欠な知識として、この講義を活用して欲しい。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際金融の基礎理論全般を理解すること</li> <li>(2) 理論と現実の相違を明確に理解することによって、実際のビジネスにおいて、国際金融の理論をどのように活用すれば収益を得られるかを理解すること</li> <li>(3) 現実に発生している国際金融問題について、理論を踏まえた理解ができること          具体的には、国際金融の理論、実務、現実問題のそれぞれに関する新聞や雑誌などの記事をスムーズに理解できるようにすること。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>過去の授業評価で、講義が聞き取りにくかったとの声が聞かれた。そこで、毎年受講生に私語を慎むように注意を促すとともに、大きく明瞭な発声を心掛けた。その結果、もともと平易な講義内容のものが聞き取りやすくなり、分かりやすいとの評価を得たので、今年度も継続したい。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 中條誠一 『新版・現代の国際金融を学ぶ』 勁草書房		
<b>〔指定図書〕</b> レポート提出課題本: 中條誠一 『ドル・人民元・リブラー—通貨でわかる世界経済』 新潮新書		
<b>〔参考書〕</b> 藤田・上川 『現代の国際金融論』 有斐閣		
<b>〔前提科目〕</b>		

<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>基本的には、期末テスト（100点満点）によって評価する。  ただし、授業は双方向方式を取り入れて行うため、適切な質問や回答に対しては加点する。  さらに、授業参加および貢献点、レポートの点数を加点する。  加点部分の配点は、授業の開始時に提示する。  なお、履修者が少ない場合には、期末テストを行わず、レポートなどで評価することもあり得る。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>メインとなる期末テストは、授業中に対象となる複数のテーマを指摘し、かつそのテーマについてのポイントを明確に講義する。計算問題については、授業中にも、簡単な例題を出して、練習してもらいたい。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>ともすれば、国際金融論は理論と実務や現実が乖離しており、分かり難いとか、実際に役立たないという声を多く聞く。その溝を埋め、実際に日常生活で使うことができ、役立つ国際金融論の講義にしたい。  そのために、たえず理論を実務や現実問題と関連付けながら講義をするので、受講生は新聞、雑誌、TVなどを通じて、国際金融に関わる動きをウオッチし、問題意識を持つように心がけてもらいたい。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b></p> <p>総合商社での国際的な金融業務の経験を活かし、為替レート予想、国際資金調達や運用の仕方などを授業に取り入れたい。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際収支の仕組み  内 容: 国際的にどんな取引がなされているのかを国際収支表から見てみる</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書、関連資料を配布</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):為替レートの国際収支調整機能  内 容:為替レートによって、どうすれば国際収支は調整できるのか、現実にはどうかを見てみる</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):国民経済と国際収支  内 容:経済全体から国際収支を見るI-Sバランス論とその現実的意義を考える</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):購買力平価説  内 容:伝統的な為替レート決定理論とその現実的意義を見てみる</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):アセット・アプローチ理論  内 容:新しい為替レート決定理論とそれによって為替レートをどう予測すればよいかを考える</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):金利平価説と金利裁定取引  内 容:金利平価の成立メカニズムと実際に利益を得るための方法を理解する</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際金融市場とその機能          内 容:国際金融市場の概要とその機能について考える</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):先物取引          内 容:デリバティブ取引のひとつである先物取引の仕組みを知り、どのように使えばよいかを考える</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):通貨オプション          内 容:デリバティブ取引のひとつである通貨オプションの仕組みと使用の仕方を考える</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):通貨スワップ          内 容:デリバティブ取引のひとつである通貨スワップの仕組みと使用方法を考える</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):基軸通貨・ドルとアメリカの「法外な特権」          内 容:世界の基軸通貨であるドルを発行することでアメリカが得ている特権と問題を考える</p> <p>教科書・指定図書:配布資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):通貨統合とユーロ危機          内 容:通貨を統合するとはどういうことかとユーロ危機の原因と対応について見てみる</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書、配布資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):アジアの通貨システムと人民元の国際化          内 容:アジアにおける通貨統合や人民元圏誕生の可能性について見てみる</p> <p>教科書・指定図書:指定の教科書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):お金(通貨)とは何か          内 容:今、新しい通貨として、デジタル通貨が注目されている。国際金融にも大きな影響を与えると思われるデジタル通貨を理解するために、そもそも「通貨」とは何かを考えてみる</p> <p>教科書・指定図書:配布資料</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):「未来の通貨」(デジタル通貨)はどうか          内 容:未来の新しい通貨はどのようなものかを考えてみる</p> <p>教科書・指定図書:配布資料</p>
試験	

<b>〔科目名〕</b> 公共政策論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択
<b>〔担当者〕</b> 木立 力	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:開講時に案内 場所:研究室	<b>〔授業の方法〕</b>
<b>〔科目の概要〕</b> 2年次の「マクロ経済学」では主にIS・LMモデルを学んだと思います。そこでは国債発行を財源として政府支出を増やしたり、減税したり、貨幣供給を増やすことでGDPが拡大します。どのような場合にも、政府支出は多いほど、税金は安いほど、貨幣供給は多いほどGDPは高まるのでしょうか。 このモデルは不況下の一時点の分析には適していますが、このモデルに基づく政策は経済成長にはむしろ悪影響を及ぼすのです。  この講義では、第1に、「マクロ経済学」の講義で学んだIS・LMモデル、静学的な古典派モデルと経済成長モデルを対比し、 どの経済状況のときにどのモデルが適しているか、どの政策が適しているかを検討します。  少子高齢化は長期の動きなので、実は経済成長モデルの分析が有効です。この講義では、第2に少子高齢化に関する政策を経済成長モデルを用いて考察します。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 2年次で学んだマクロ経済学でとりあげられた静学モデルと経済変動論でとりあげられた動学モデルとの比較を行う。 この講義では、少子高齢化のもとでの経済政策を、経済成長モデルの観点から考察し、短期モデルによる経済政策との違いを明らかにする。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b>  最終目標は、日本の少子高齢化社会でのマクロ経済政策のあり方について、現実の経済政策との違いを批判的に考察すること。 中間目標は、第1に、経済成長モデルをよく理解すること。第2に少子高齢化問題への経済成長モデルの適用について考察すること。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>  <b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 昨年この講義のアンケートでは、日本の経済政策との関連について説明したことが好評価を得ていた。本年も経済成長のモデル分析と現実の日本の経済政策との関連を解説したい。出席点も成績評価に大きく影響する。		

〔教科書〕 なし	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』『マクロ経済学Ⅱ』必要箇所は配布する。	
〔前提科目〕 マクロ経済学を前提とする。経済変動論を履修済みであることが望ましいが前提ではない。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)  モデル分析に関する数回のレポート提出を求める。 成績評価は主に期末試験の結果によるが、毎回出席をとり、出席点との合計によって決める。 期末試験が3分の2、出席点が3分の1。	
〔評価の基準及びスケール〕 80点以上A, 70点以上80点未満B, 60点以上70点未満C, 50点以上60点未満D, 50点未満F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕  理論モデルによる分析と現実との対応を考えるようになってほしい。	
〔実務経歴〕  なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 短期マクロモデルの復習 内 容: 短期のマクロモデルの復習  参考書: マンキュー、マクロ経済学Ⅰ
第2回	テーマ(何を学ぶか): ソローモデルの復習 内 容:  参考書: マンキュー、マクロ経済学Ⅱ

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):短期モデルと長期モデルの前提の比較</p> <p>内 容:</p> <p>作成資料</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける貯蓄率の変化と財政赤字</p> <p>内 容:</p> <p>参考書・マンキュー、マクロ経済学Ⅱ</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける人口成長率と少子化問題</p> <p>内 容:</p> <p>参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数とライフサイクル貯蓄仮説</p> <p>内容:</p> <p>参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数と恒常所得仮説</p> <p>内容:</p> <p>参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):サムエルソンの消費貸借モデル</p> <p>内容:</p> <p>作成資料</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):重複世代モデル</p> <p>内容:</p> <p>作成資料</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):人口ボーナスと人口オーナス</p> <p>内 容:</p> <p>作成資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):少子化と移行世代</p> <p>内 容:</p> <p>作成資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):重複世代モデルにおける公的年金</p> <p>内 容:</p> <p>作成資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):全体の復習</p> <p>作成資料</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):全体の復習</p> <p>内 容:</p> <p>教科書・第7章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):全体の復習</p> <p>内 容:</p> <p>作成資料</p>

試験	12回目までの内容について試験を行う
----	--------------------

<b>〔科目名〕</b> 経済特殊講義Ⅳ(経済学説史)	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 中井 大介 Daisuke Nakai	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 授業の前後で受け付けます。 <b>場所:</b>	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> アダム・スミスにはじまり、マーシャルやケインズを経て現代へと至る、経済学の歴史を概観します。各回1～2名の重要な経済学者をピックアップし、彼らの学説とその現代的意義について検討します。とくに、ミクロ経済学とマクロ経済学が形成された歴史のプロセス、あるいは非主流の経済学の特徴などに注目します。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」</b> 経済学が発展してきた歴史的経緯を学ぶことで、経済学の全体像を把握することが可能になります。また、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの特徴や両者の関係などについても、より正確に理解することが可能になります。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> ・中間目標 当面の目標は、経済学の誕生から現代へと至る経済学の歴史に関する基本的知識を、受講者各自が習得することです。 ・最終目標 長期的な目標は、数理的・理論的アプローチとは異なる、過去の経済学の思想的・哲学的アプローチから、現代の経済問題解決への糸口を探ることです。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 講義内容の改善、一部変更などを適宜行う予定です。また復習課題によって、講義内容の更なる定着を図ることも検討しています。		
<b>〔教科書〕</b> 毎回プリントを配布するため、教科書は使用しません。		
<b>〔指定図書〕</b> 特になし。		
<b>〔参考書〕</b> 授業中に読書案内として適宜紹介します。		
<b>〔前提科目〕</b> 特になし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満		

<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>          配布のプリントとスライドを用いて授業を進めますが、講義内容をよりよく理解するためには適宜メモなどをとることが有用であると思います。また、講義スケジュールは変更する場合があります。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>          該当なし。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス          内 容: 講義計画や目的について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): スミスと経済学の誕生          内 容: 経済学誕生の歴史的背景やスミスの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): リカードとマルサス          内 容: リカード・マルサスの学説や穀物法論争・人口問題について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): ミルと古典派経済学の完成          内 容: 古典派の特徴や定常状態について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): マーシャルとマイクロ経済学          内 容: ミクロ理論誕生の歴史的背景について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): ピグーと厚生経済学          内 容: 厚生経済学のルーツについて</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): ケインズとマクロ経済学          内 容: マクロ経済学誕生の歴史的背景やケインズの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): マルクスと社会主義・共産主義          内 容: 社会主義誕生の歴史的背景やマルクスの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): ヴェブレンと大衆消費社会          内 容: 大衆消費社会の形成と顕示的消費のアイデアなどについて</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): シュンペーターとイノベーション          内 容: 創造的破壊などの概念やシュンペーターの経済社会観について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): サミュエルソンと新古典派総合          内 容: ミクロ経済学とマクロ経済学の関係について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): フリードマンとマネタリズム          内 容: リバタリアニズムやマネタリズムの学説について</p> <p>教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ          内 容: 第2回から第7回の復習(課題研究によって実施します)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 後半のまとめ          内 容: 第8回から第12回の復習(課題研究によって実施します)</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ          内 容: 経済学説史全般について(課題研究によって実施します)</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。</p>

<b>〔科目名〕</b> 自治体政策法務	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択科目
<b>〔担当者〕</b> 遠藤 哲哉 Endo Tetsuya	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:授業時間以外、随時 場所:大学院棟、1301 研究室	<b>〔E-mail〕</b> tetsuya@b.nebuta.ac.jp
<b>〔科目の概要〕</b> <p>地域社会の諸問題を解決し、公共善を実現するために、公共政策イノベーションとそれを担う新しいリーダーシップが求められている。地方創生の分権時代において、自己決定のチャンスを広げる制度とシステムが作られ、公共政策を創造する時代である。そこには、自己責任と能力の向上もまた必要である。本科目では、分権時代を確かなものとし、そこに生き、一人ひとりが優れた地域リーダーとして自己の成長を遂げうる道筋を、広い意味での政策法務の立場から明らかにしていきたい。具体的には、政策法務論、政策経営の諸理論、関連する財務の考え方を踏まえ、分権時代の地域経営、市民社会に基づく公共経営について、政策企業家的な観点から、公共政策イノベーションの創出を実現する諸方策を論じていく。</p> <p>地域社会に生きる人々の生命と安全を守り、全ての人々が幸せでやりがいのある仕事を行い、住みよい社会を創造していくために、どのような政策法務と地域マネジメントを行っていけば良いか。それらは、地域政治、行政及び経済の課題であると同時に、我々一人ひとりの行動や志にかかっている。特に今日では、社会起業家の台頭に焦点があてられることがあるように、地域に生きる人々一人ひとりの創意工夫、活力、ケアの精神、そしてまた政策起業やイノベーション創発のための場づくり（コミュニティ形成）等が重要である。</p> <p>具体的には、自治体政策法務の基本的な考え方を学びつつ、非営利団体、NPO・NGO、企業とのパートナーシップの内容や動向を紹介し、学際的観点から地域社会における政策法務の在り方を明らかにし、その活用の仕方を考える。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>政策法務は、様々な領域と深く結びついている。なぜならば、市民自治の下で、地域に生きる人々の豊かな生命を育み、新たな地域社会の未来を創造するための営みに関係しているからである。地域の一人ひとりが主役であり、潜在的な可能性を引き出し、日々成長を続け、新しい自己と地域社会を創造していくのである。そのために、なにが必要となるか、関連諸科学の成果を活用し究明していく。</p> <p>したがって、この科目では、地域社会において重要な役割を果たしている政策法務について、主として政策法務、行財政法務、市民自治等の観点から把握し理解を深める。そのために、自治体政策法務に隣接する諸科学の成果をも援用しつつ、学際的にアプローチする予定である。この科目を学ぶことによって、諸君は、地域社会に生きる一市民として、自治体政策法務の役割と意義を再検討することが期待される。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <b>最終目標</b> 政策法務の様々な動向を踏まえて、さらに改革を行っていく上で必要と思われる内容を、政策起業家、関連する社会科学の諸観点から理解する。 <b>中間目標</b> 政策法務に関連する地域イノベーション、地域政策の具体的ケースを、事例に沿って理解し、その意義と役割について、理解を深める。特に、近年の財政危機の中にあつて、様々な政策改革動向が存在している。その実態を知ることによって、将来の改革展望についての認識を新たにできる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> ・新設の科目である。		
<b>〔教科書〕</b> オリジナルの資料を使用します。 なお、授業中、指定文献、参考図書等の読書を課します。		

**〔指定図書〕**

駒崎弘樹『政策起業家：「普通のあなた」が社会のルールを変える方法』ちくま新書  
磯崎初仁『自治体政策法務講義』第一法規、2018年。

**〔参考書〕**

磯崎初仁『立法分権のすすめ：地域の実情に即した課題解決へ』ぎょうせい  
五十嵐敬喜他『美の条例』学芸出版社  
鈴木康夫『自治体法務改革の理論』勁草書房  
田中孝男『自治体法務の多元的統制』第一法規  
天野巡一他『自治体政策と訴訟法務』学陽書房  
中邨章『自治体主権のシナリオ：ガバナンス・NPM・市民社会』芦書房  
山口道昭『入門 地方自治』学陽書房  
菊池理夫『共通善の政治学：コミュニティをめぐる政治思想』勁草書房  
松下圭一『市民自治の憲法理論』岩波新書  
野口和雄『まちづくり条例の作法：都市を変えるシステム』自治体研究社  
木佐茂男『わたしたちのまちの憲法』日本経済評論社  
遠藤宏一『現代自治体政策論』ミネルヴァ書房

随時、授業中に紹介します。  
沢山の参考書を紹介するので、この機会に読破して欲しい。

**〔前提科目〕**

なし。自治体経営論、行政経営論と関連する。

**〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)**

- ・ 不特定日に授業後、簡単な授業レポートの提出か小テストを行う予定です。
- ・ 評価は、試験、授業レポート、小テスト、授業中の参加態度、意見等を総合的に見ます。

**〔評価の基準及びスケール〕**

- ・ 試験、授業レポート、小テスト、及び授業への参加度等、全体を通して評価します。  
なお、配点等は、授業時に説明します。
- A: 100～80点  
B: 79～70点  
C: 69～60点  
D: 59～50点  
F: 49点～

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

グローバル化と少子高齢化、情報化の進展という社会の構造変動の中で、どのような地域社会を構想していけば良いか、未来の地域社会を、政策起業や政策法務の観点から検討するものです。

政策法務の動向を知り、理解を深めて下さい。また、この科目をきっかけに、実際に地域づくりの現場に行ったり、多くの関連書籍、文献を読破して、見聞を広めて欲しいと思います。なお、英文の資料も、使用します。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション～自治体政策法務論の射程 内 容: 科目の概要、自治体政策法務、政策起業、地域価値創造、地域社会の再創造 教科書・指定図書 資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか):新たな地域社会への模索 内 容: 自治体政策法務と地域経営(1) 教科書・指定図書 資料配布

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:自治体政策法務と地域経営(2)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:自治体政策法務と地域経営(3)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:自治体政策法務と地域経営(4)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(1)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(2)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 中間まとめ          内 容:自治体政策法務の課題と再編振り返り(中間テスト)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(3)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(4)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(5)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(6)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(7)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編          内 容:地域社会課題と政策(8)          教科書・指定図書 資料配布</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と展望          内 容  まとめ          教科書・指定図書 資料配布</p>

<b>〔科目名〕</b> 経営革新論Ⅱ（事業創造論）	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 生田泰亮 IKUTA Yasuaki	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> これまで学んできた経営経済学の知識、理論、特に春学期の経営革新論Ⅰを基礎としながら、「事業を立ち上げ、継続させ、成果を得る」までのプロセスについて、以下の2点を踏まえながら、ケーススタディを中心に講義を行う。 <p>(1) 事業創造の基礎理論          「事業を立ち上げる」と言っても、容易なことではない。企業内での新規事業であれ、0からの起業であれ、事業を立ち上げるといふフェーズにおいては、①事業領域の設定、②新技術から製品化・アイデアのサービス化、③資金調達といった要点を同時に達成していかなければならない。具体的には、企業内での事業発掘、社内起業、コーポレート・ベンチャーキャピタル、クラウドファンディングなどを学ぶ。</p> <p>(2) 企業における事業創造          事業が軌道に乗り、製品やサービスの市場投入のフェーズに移行していくには、製品化に向けたプロダクト・イノベーションと生産性向上のためのプロセス・イノベーションの視点が重要となってくる。加えて「イノベーションのジレンマ」「キャズム」が示すように、超えなければならぬ「市場における壁や障害」がある。よって、事業をイノベーションとマーケティングの視点から考える。</p> <p>基本的には、以下のような流れで講義を進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 事前に予習課題に取り組む（教科書の予習範囲、事前の配布資料の熟読など）。</li> <li>② 講義内での教員からの説明、受講者とのディスカッションを通じて学習内容についての理解を深める。</li> <li>③ 各回の講義内容をもとに、新たな課題が出され、自身で調査、分析し、課題レポートとして提出する。</li> </ol>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 本講義は、経営経済学における様々な議論、概念、理論を基本としつつ「事業」にフォーカスして講義を進める。事業の概念を軸として、これまで学んできたことを再確認しながら、問い直すことで、これまでの学びをより深めることを期待したい。		
<b>〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスを企画、構想するための基礎的な知識を身につける。</li> <li>・イノベーションとマーケティングの視点から事業を分析することができる。</li> <li>・これまでの様々な会社の事業、製品、サービスがどのように生み出され、認知され、普及したのか、その要点を分析し、まとめることができる。</li> </ul>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 学生の理解度を常に考慮しながら講義を進めていくことを心がけます。質疑等は遠慮なくどうぞ。		
<b>〔教科書〕</b> 小林敏男『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014年。（春学期「経営革新論Ⅰ」教科書を使用） 他、講義資料を配布する予定。		
<b>〔指定図書〕</b> なし		
<b>〔参考書〕</b> 島田直樹『事業創造 理論と実践』WAVE出版、2018年。		
<b>〔前提科目〕</b> 「経営革新論Ⅰ」を受講し、単位取得していること。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等)  講義時のディスカッション (予習、事前の課題などへの取り組みを含めて)・・・20%  課題レポート (複数回実施する)・・・80%</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕  80%以上 A      79 -70% B      69-60% C      59-50% D      49%以下 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕  3年秋の開講科目です。これまでの学習のまとめと応用という位置付けで講義を考えています。講義は事前の予習を前提とし、ディスカッションを中心に行います。予習内容をもとに学んだ内容を再確認するために、あるいは、自身の理解、閃きやアイデアを「他者に対して発言する」ことで、思考力や表現力を鍛えて欲しいと思っています。積極的な姿勢、旺盛な学習意欲を期待します。</p>	
<p>〔実務経歴〕  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ (何を学ぶか) : インTRODクシヨン  内 容 : 講義の進め方、概要について説明 (※シラバス持参のこと)。  教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業における事業創造 (1)  内 容 : 事業創造とは何か?  教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業における事業創造 (2)  内 容 : 新技術、新規事業をいかにして生むか?  教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業における事業創造 (3)  内 容 : 新規事業への突破口  教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 事業創造の基礎理論 (4)  内 容 : 新製品をいかに普及させるか?  教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 事業創造の基礎理論 (5)  内 容 : 事業と戦略的提携、3Cから4Cへ  教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業における事業創造 (1)  内 容 : ケーススタディ① フランチャイズ・ビジネスの成長  教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ (何を学ぶか) : 企業における事業創造 (2)  内 容 : ケーススタディ② 世界ブランドへの成長  教科書・指定図書</p>

第9回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（3）</p> <p>内 容：事業構築と事業成長</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（4）</p> <p>内 容：ケーススタディ③ 半導体産業</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（5）</p> <p>内 容：ケーススタディ④ 半導体と関連産業</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（6）</p> <p>内 容：最先端技術の動向と産業構造の転換</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（1）</p> <p>内 容：ケーススタディ⑤ 地方から全国、世界へ進出</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（2）</p> <p>内 容：ケーススタディ⑥ 地方から全国、世界へ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（3）</p> <p>内 容：講義全体のまとめ</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	<p>※試験は実施しない。ただし、この期間に課題レポートの提出を課す予定。</p>

<b>〔科目名〕</b> 地域と産業政策	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 選択
<b>〔担当者〕</b> 安田公治	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 別途告知する <b>場所:</b> 1212	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> 本科目では地域における産業政策に対して、青森県と他地域の産業構造を比較したうえで、どのような政策が望ましいかについて学びます。講義の前半では特に地域とは何かを改めて理解し、地域における雇用・通勤圏、商圏がどのように分布しているか、都市の集積が起こることによるメリットとデメリットなどについて学びます。また独占企業の行動などについてもミクロ経済学の知識にも触れながら説明を行い、独占や寡占を考えるうえで企業が市場に与える影響力をどのように測るのかについても説明します。後半では産業連関表の見方を知り、それをもとに地域の基盤産業が何であるかの見分け方も学びます。		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 地域における雇用・通勤圏、商圏などの実際に経済活動が行われる範囲は必ずしも、都道府県、市町村などの自治体の行政区画と一致しません。経済活動が行われる圏域と行政区画の違いを無視して産業政策がなされると、実態と合っていない誤った政策となってしまう可能性があります。地域の産業政策を考えるうえでは、このような地域や都市の構造を把握することが重要となります。本科目では地域や都市の構造の違いを知り、適切な産業政策は何かを学びます。また地域の発展にはお金を稼げる産業である基盤産業の育成が大事になりますが、何が基盤産業となるかの判断基準の1つとして産業連関表を用います。特に後半では産業連関表から基盤産業を判断できるように講義を行います。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 中間目標: 地域や都市の空間的な構造を理解する。 最終目標: 異なる地域の構造に対して、適切な産業や政策を判断できるようにする。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 「一方通行であったので途中で理解しているかの確認をしてほしい。」という指摘について。今後特に途中で質問等を行い、双方向の授業を心がけます。		
<b>〔教科書〕</b> 指定しない		
<b>〔指定図書〕</b> 指定しない		
<b>〔参考書〕</b> 講義内で必要に応じて紹介		
<b>〔前提科目〕</b> 特になし		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 中間試験(配点30%) 期末試験(配点70%) ・出席状況 講義のうち5回欠席したものは、レポート・試験の点数にかかわらずF評価とします。		

<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A:80%以上  B:70～79%  C:60～69%  D:50～59%  F:50%未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>地域経済や地域の産業を理解するうえでは1地域のみを向けては十分な理解を得られません。講義では青森県や青森市の事例も扱いますが、東北だけではなく全国の様々な地域や都市の構造に目を向けて、地域や産業間のつながりを理解するように心がけてください。  また講義内でランダムに質問をしますので、自分自身で考えて回答することを意識してください。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域とは何か  内 容: 地域区分、都市圏・商圈</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 都市化の概念とプロセス  内 容: 都市の形成、人口変動</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 都市集積の経済  内 容: 都市集積のメリット、デメリット</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 都市内部の土地利用  内 容: 都市内部の企業、オフィス、住宅の立地がどのように決まるか。付け値地代理論。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 都市計画  内 容: 少子高齢化、都市計画マスタープラン、コンパクトシティ、移住促進政策</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私的独占(1)  内 容: 自然独占、私的独占、市場支配力</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私的独占(2)  内 容: 代替財、市場画定</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>中間試験</p>

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):規制緩和と交通政策          内 容:規制緩和・民営化、公共交通</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):農業とICT化          内 容:地域の農業政策、既存産業へのICTの活用</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):垂直的統合と6次産業化          内 容:垂直的統合、農業の6次産業化、マーケティング</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):21世紀以降の産業政策          内 容:産業クラスター政策、官民連携</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):まちの経済の成り立ち          内 容:中間財・最終財、地域経済の循環と漏れ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):まちの経済の見方          内 容:基盤産業の見極め、特化係数、産業連関表の作成</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まちの構造改革          内 容:実際の産業連関表を見て地域の問題を理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	筆記試験(配点70%、講義資料・自筆ノートのみ持ち込み可)

<p>〔科目名〕</p> <p style="text-align: center;">環境ビジネス論</p>	<p>〔単位数〕</p> <p style="text-align: center;">2 単位</p>	<p>〔科目区分〕</p> <p style="text-align: center;">専門科目</p>
<p>〔担当者〕</p> <p>平井太郎</p>	<p>〔オフィス・アワー〕</p> <p>オフィス・アワーは設けませんので、授業中に質問していただくか、メールでお問い合わせください。</p>	<p>〔授業の方法〕</p> <p>講義</p>
<p>〔科目の概要〕</p> <p>青森県内のさまざまな事例をもとに、地方・農村における地域づくりに関する基本的な考え方を学ぶ。特に基本にすえるのは、アクションリサーチという手法だ。実際にアクションリサーチを青森のさまざまな現場の人びとと進めた軌跡を学生と共有することで、学生自身も現場で地域づくりの担い手として活躍するためのポイントを体得してほしい。</p>		
<p>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</p> <p>現在、地域社会では、現場の話し合いを通じた課題解決が求められている。この授業が核にすえるアクションリサーチこそ、そのように求められている話し合いをうまく進める手法の1つに他ならない。</p>		
<p>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</p> <p>地域の課題解決にむけた話し合いをうまく進めるために、「課題よりも目標」「尊重の連鎖」「周辺的な存在の連鎖的な尊重」「根をもつことと翼をもつこと」「4Dサイクル」といった基本的な考え方を学んだうえで、自分自身で実践できるようになること。</p>		
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>平井太郎『地域でアクションリサーチ』(農文協、2022 年刊)</p>		
<p>〔指定図書〕</p> <p>なし</p>		
<p>〔参考書〕</p> <p>なし</p>		
<p>〔前提科目〕</p> <p>なし</p>		
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>毎回、講義にかんする学修成果と質問を内容とするリアクション・ペーパーを提出する。リアクション・ペーパーに記載された学修成果と質問から理解度と達成度を評価する。</p>		
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>5段階(A、B、C、D、F)で評価する。</p>		

<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕          学生のみなさんの素朴な疑問を大切にします。</p>	
<p>〔実務経歴〕          なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：今、なぜアクションリサーチが求められているのか          内 容：現在、地域の課題解決をめぐる話し合いが求められている。その背景には現代社会特有の閉塞感がある。それを解きほぐす1つの手がかりとしてアクションリサーチがある。          教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：なぜアクションリサーチを通じて現場の不全感を解きほぐせるのか          内 容：アクションリサーチのポイントの1つは、グループで課題解決に取り組むと、個々人でやるよりうまくいきやすいということだ。もう1つのポイントは、そうしたグループの力を引き出すための工夫だ。          教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：私たちにとってアクションリサーチは未知の方法なのか          内 容：アクションリサーチは戦時下の米国で生まれた。だが、日本にはほぼ同時代、戦後直後に持ちこまれていた。それから現在まで、主に農村部の女性たちによってアクションリサーチは育まれてきた。          教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：3つの空洞化を乗り越えるには          内 容：現在の地方はヒト・トチ・ムラという3つの空洞化に襲われている。同時に、アクションリサーチが注目するのは、3つの空洞化の先にある、誇りの空洞化だ。          教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)：地域おこし協力隊からアクションリサーチが始まる          内 容：この10年、地域おこし協力隊という仕組みが、地方に大きな力を与えてきた。特にアクションリサーチと結びつくと、地方では無理だという思い込みの打破につながる。          教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)：農業栄えて農村減ぶ、をどう乗り越えるか          内 容：農業については規模拡大や高付加価値化が必要だと言われてきた。しかし、その結果、足許の農村の人口は急減し、農村らしい祭や景観も失われている。では、どうしたらいいのだろうか。          教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)：総合的な計画をどう作ったらいいのか          内 容：現在、地方自治体は国からさまざまな計画を立てるよう求められている。だが、意味のある計画を立てるのは意外と難しい。そこで頼りになるのが、田園回帰1%戦略という手法だ。          教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)：目標をうまく共有するには          内 容：地域づくりとアクションリサーチの第一歩は目標をうまく共有することだ。課題からでなく目標を見つけることが、現場に力を与える。特に大事なものは、まとめるのではなく、組み合わせるという発想だ。          教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：4D サイクルとは何か          内 容：地域づくりとアクションリサーチの進み方の1つのモデルとして、4D サイクルと呼ばれるものがある。Discover-Dream-Design-Destine の4つを循環させる方法だ。          教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：尊重は連鎖する          内 容：地域づくりとアクションリサーチを一步一步進めるには、現場で周辺的な存在とされている人たちが、現場の人たちから自発的に尊重する雰囲気を生むことだ。どうしたらそうした雰囲気が生まれるのか。          教科書・指定図書</p>

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):根をもつことと翼をもつこと</p> <p>内 容:地域づくりとアクションリサーチが着実に成果を生むには、まず、自分たちの根を確かめてから、自ずと翼が生えてくるようなプロセスを踏むことが大切だ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):かけた時間は費用ではなく資本になる</p> <p>内 容:地域づくりやアクションリサーチには時間がかかる。だがその時間は無駄ではない。不確実な未来を乗り越えるための資本になるからだ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代日本の農村におけるアクションリサーチの骨格</p> <p>内 容:これまでの議論をふりかえりながら、今、農村で求められるアクションリサーチには、地域経済循環という1つの方向性があることを確認する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):安心感のある場と「コミュニティ」</p> <p>内 容:コミュニティについてはさまざまな見方がある。だが、その核心には、アクションリサーチで大事にしている安心感のある場づくりがある。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):コミュニティスタディからアクションリサーチへ</p> <p>内 容:アクションリサーチはまだそれほど知られていない手法であり学問だ。だが、その出発点は、誰しもが関心を寄せ、希求するコミュニティに対する問いがある。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	なし

<b>〔科目名〕</b> 地域みらい特殊講義Ⅲ	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目(展開科目)
<b>〔担当者〕</b> 竹内 紀人 Takeuchi Norito	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 非常勤講師につき、授業終了後など、随時 <b>場所:</b> 対応します。	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>地域金融の仕組み全般に関する基礎知識を学びながら、並行して、これからの地域金融について考える科目です。地元銀行出身で銀行系シンクタンク及びコンサルタント会社の役員を経験した講師が具体的事例を交え、解説します。地域のお金の流れをつかさどる「地域金融機関」の本質的な役割を、地域振興の視点から皆さんに考えてもらうための特殊講義です。</p> <p>前中盤の10回で、これまでの地域金融機関の姿を知識として習得します。終盤の5回は、指定の書籍を題材に、これからの地域金融についてディスカッションします。</p> <p>本科目は、金融理論の講座ではなく、単なる金融業務の解説講座でもありません。地域経済との関連性に焦点を当て、地域金融の重要性や課題を皆さんが自身の頭で考える科目です。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>本科目は地域経済、金融、財務など、他のさまざまな科目と関連します。</p> <p>しかし、これまで何を学んできたか、現在、どれだけの専門知識を持っているかは問いません。</p> <p>地域経済の活性化を目指していくためには、地域の中小企業や住民と最も近い距離で「お金」を扱っている地域金融機関の特性や課題を考えることが非常に重要です。</p> <p>将来、行政分野や地元民間企業などで「地域のため」に活躍したいと考えるすべての学生に、金融実務の経験者だからこそ伝えられることがあります。その点が本特殊講義の最大の特長です。</p> <p>なお、地元金融機関の統合が進むなど、かつてない環境変化の中で、金融分野にチャレンジしてみたい学生には、業界研究の一助にもなります。キャリア科目的な要素での受講動機も歓迎します。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>地域金融システム全般に関する基礎知識を身につけること。(中間目標)</p> <p>地域経済活性化の視点を持ちながら、地域金融について意見を述べられるようになること。(最終目標)</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>地域金融を取り巻く環境は、これまでにないほど、急激に変化を遂げています。</p> <p>毎年、講義内容についてはマイナーチェンジを施し、また時事的な話題も極力取り上げながら講義をしてきました。</p> <p>基本的にこれまでの講義内容は高評価を得てきましたが、昨年度、現状の環境変化に対応するため、大幅な内容の組み換えを実施しました。具体的には、知識習得の講義をコンパクトにブラッシュアップし、終盤の「これからの考える」時間を充実させました。</p> <p>難解な専門用語がどうしても出てくる分野なので、わかりやすさと親しみやすさを旨とし、意欲的に予習復習に取り組めるよう、受講人数に合わせた柔軟な講義スタイルを進めていきます。自ら学ぶ要素を昨年度以上に強めていくつもりです。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 橋本卓典 講談社現代新書(2020.9) ISBN 978-4-06-520145-9		
<b>〔指定図書〕</b> なし		

<p><b>〔参考書〕</b> 『地銀の次世代ビジネスモデル』 編著 大和総研 日経BP(2020.5) ISBN 978-4-8222-8989-8</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> ありません。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>授業内プレゼンテーション 30%、ディスカッション 20% 期末試験(記述式)50%の割合で評価します。 授業への取り組み姿勢が特に優れていると認められる場合は加点対象とします。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>評価スケールは大学のスタンダードを基準とします。 総合的な学修に、出席は重要です。欠席が3分の1を超える場合は単位認定の対象外とします。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <p>毎年、10名前後の比較的小規模なクラスとなるため、一人ひとりの顔が見える中での講義及びディスカッションとなります。仮に就職先としての金融機関には興味がなくても、世の中でお金が動く仕組みを少しでも知ってもらえれば、非常勤講師としてうれしいことです。 いずれにせよ、毎回の講義の積み重ねで理解し、考えさせる組み立てをしているため、極力欠席をしないよう心がけて欲しいと思います。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> 銀行業ならびに銀行周辺業務での実務経験を生かし、地域金融の仕組み全般を学び、考えさせる授業です。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ガイダンス、地域金融概説 内 容： 金融の役割、地域内の資金循環</p> <p>教科書・指定図書： 教員作成資料</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 近年における地域金融機関のビジネスを知る 1 内 容： ディスクロージャー誌を読む</p> <p>教科書・指定図書： 教員作成資料</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域金融機関のビジネスを知る 2 内 容： 地方銀行の具体的な業務 1 (資産運用系業務)</p> <p>教科書・指定図書： 教員作成資料</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域金融機関のビジネスを知る 3 内 容： 地方銀行の具体的な業務 2 (融資系業務)</p> <p>教科書・指定図書： 教員作成資料</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 金融機関の種類と役割 1 内 容： さまざまな金融機関 (業態の違いと役割)</p> <p>教科書・指定図書： 教員作成資料</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融機関の種類と役割2          内 容: ゆうちょ銀行、政策金融機関</p> <p>教科書・指定図書 : 教員作成資料</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域金融機関のビジネスモデル1          内 容: 収益の仕組み～金融財務の基礎</p> <p>教科書・指定図書 : 教員作成資料</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域金融機関のビジネスモデル2          内 容: 地方銀行の決算はどのように変化しているのか</p> <p>教科書・指定図書 : 教員作成資料</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融システムの安定性(自己資本比率・格付け)          内 容: 安心できる金融機関とは?</p> <p>教科書・指定図書 : 教員作成資料</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融環境の変化          内 容: 地域経済の変化ほか</p> <p>教科書・指定図書 : 教員作成資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融1          内 容: 金融政策(金融庁の監督方針)の変化</p> <p>教科書・指定図書 : 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 &amp; 教員作成資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融2          内 容: 地銀再編はどこへ向かう</p> <p>教科書・指定図書 : 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 &amp; 教員作成資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融3          内 容: 地域金融機関と地方創生</p> <p>教科書・指定図書 : 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 &amp; 教員作成資料</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融4          内 容: 産学官金連携・・・感染する知性</p> <p>教科書・指定図書 : 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 &amp; 教員作成資料</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融5          内 容: ネットワーク集合知</p> <p>教科書・指定図書 : 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 &amp; 教員作成資料</p>
試験	<p>記述式の期末試験を実施します。</p>

<b>〔科目名〕</b> <b>産業組織論</b>	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目
<b>〔担当者〕</b> 小寺 俊樹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間: 初回の授業にて提示 場所: 初回の授業にて提示	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>産業組織論は、産業の組織構造や企業の経営戦略、政府の競争政策を分析する学問である。この授業では、現実の企業が行う製品差別化や価格設定、合併といった様々な行動について、経済理論を用いて分析するための基礎的な方法を提供する。本講義で習得した分析手法により、学生が自ら現実の企業行動や競争政策における問題を発見し、解決策を導き出す力を育成することをこの授業の目的とする。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</b> <p>産業組織論は、産業構造や企業や消費者といった市場参加者の行動を分析するとともに、競争政策を立案するための基礎的な情報を提供する経済理論の応用分野である。したがって、この授業ではこれまで学んできた経済理論を、現実の問題解決に応用するために、どうすればよいかということ学習する。最終的に、現実の企業行動や競争政策における問題を解決する力を身に着けることにつながる。</p> <p>この授業は、マイクロ経済学、応用マイクロ経済学、ゲーム理論等の科目と関連がある。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>(中間目標)          不完全競争(独占、寡占)の理論についての知識を習得する。          製品差別化や価格差別といった、企業の競争戦略にかんする知識を習得する。</p> <p>(最終目標)          合併や垂直的取引関係等の、産業組織論にかんする基礎的な知識を習得する。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>配布資料や板書が見やすくなるよう改善できればと思います。わからないことがあれば、積極的に質問してください。</p>		

<p><b>〔教科書〕</b> 花崗誠『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣、2018</p>	
<p><b>〔指定図書〕</b> 小田切宏之『産業組織論』有斐閣、2019 泉田成美、柳川隆『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008</p>	
<p><b>〔参考書〕</b> Luis M. B. Cabral, Introduction to industrial organization second edition, The MIT Press, 2017</p>	
<p><b>〔前提科目〕</b> ミクロ経済学、ゲーム理論を履修していることが望ましい。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b></p> <p>授業の復習として練習問題を課す。また理解度をはかるため、数回の小テスト、期末試験を実施する予定である。評価は、期末試験と小テストの結果、授業中の活動や貢献等をあわせて評価する。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <p>A 80%以上、B 70%以上 80%未満、C 60%以上 70%未満、D 50%以上 60%未満、F 50%未満</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 産業組織論は、経済理論を用いて現実の企業の行動を説明しようとするものである。したがって、日頃からニュースや新聞等で報道される様々な企業の行動について、興味を持って触れてほしい。講義の進捗によって、内容を変更することがある。</p>	
<p><b>〔実務経歴〕</b> 製造業での実務経験を活かし、現実の企業が行う製品差別化や価格設定、合併といった様々な行動について、経済理論を用いて分析するための基礎的な情報を提供し、解決策を導き出す力を育成することを目的とした授業です。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 産業組織論とは 内 容: ガイダンス</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場の画定 内 容: 市場の画定</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 企業 内 容: 企業の目的と行動</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 完全競争市場 内 容: 完全競争市場における均衡</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占 内 容: 独占価格と社会厚生</p> <p>教科書・指定図書</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占 内 容: 規模の経済</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 独占 内 容: 自然独占</p> <p>教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 価格差別の種類と完全価格差別</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 第三種価格差別</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 二部料金</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 価格差別 内 容: 抱き合わせ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): ゲーム理論の基礎 内 容: ナッシュ均衡</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): ゲーム理論の基礎 内 容: ナッシュ均衡</p> <p>教科書・指定図書</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: ベルトラン競争</p> <p>教科書・指定図書</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: クールノー競争</p> <p>教科書・指定図書</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: クールノー競争</p> <p>教科書・指定図書</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): 寡占市場 内 容: シュタツケルベルク競争</p> <p>教科書・指定図書</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品差別化 内 容: 水平的製品差別化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): 製品差別化 内 容: 垂直的製品差別化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): カルテル 内 容: カルテルの種類</p> <p>教科書・指定図書</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 合併と買収 内 容: 合併と買収</p> <p>教科書・指定図書</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 垂直的な企業間関係 内 容: 再販価格維持</p> <p>教科書・指定図書</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 垂直的な企業間関係 内 容: 排他的取引</p> <p>教科書・指定図書</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): ネットワーク 内 容: ネットワーク外部性</p> <p>教科書・指定図書</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): ネットワーク 内 容: 標準化</p> <p>教科書・指定図書</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: これまでの講義内容の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	第1回からの内容について、筆記試験を実施する